

One Purpose

同志社大学通信
FOR BETTER COMMUNICATION

144

2005
October

DOSHISHA UNIVERSITY

●特集1 環境問題を考える、
できることから行動する

●特集2 文化情報学部 始動!!
新たな伝統が走り出す

●同志社人訪問 日本コカ・コーラ株式会社
代表取締役社長 魚谷雅彦さんに聞く

『ONE PURPOSE』は学生・卒業生のみなさんと大学とのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。
ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。

COVER STORY

表紙の情景
[射撃場]



体育会射撃部夏合宿の最終日。
射撃場の室内はほぼ無風。蒸し暑い。

射撃は、エアライフルとスモールボアライフルの2種類の銃を用い、立射、伏射、膝射の3つの姿勢で行われる競技だ。エアライフル種目では10メートル先の標的の中心0.5ミリを、スモールボアライフル種目では50メートル先の10.4ミリを狙う。競技に必要なのは、体力よりも一発ごとの集中力だそうだ。新入部員には初心者が多いが「4年間で大会上位を狙える実力は十分つきます。オリンピック出場も夢ではありません」と長孝典主将(商学部4年次生)。選手のジャケットやズボンは、重くて固い、厚手のキャンバス製。銃を身体で支え、安定した射撃を行うためには、どんなに暑くても必要な装備なのだ。

エアライフル射撃場(表紙写真)、スモールボアライフル射撃場(写真上)の両方に「電子標的システム」が導入されている。大学ではトップレベルという練習環境のもと、38人の部員は、14年ぶりに春季全関西学生選手権大会で総合団体優勝を果たした。11月の全日本学生ライフル射撃選手権大会に向けて調整に余念がない。

大学の活動

特集1

環境問題を考える、 できることから行動する

2

特集2

文化情報学部 始動!! 新たな伝統が走り出す

7

同志社の研究は今

竹の高度利用研究センター 「竹」研究の最先端を担う

9

2004年度 大学決算について

11

CAMPUS NEWS

第3回情報科学技術フォーラムでFITヤングリサーチ賞を受賞／「フェアトレードって何?」FMラジオで情報発信／「第一回青嵐展」開催／不耕起で甦れ!生駒の里山“実践を通してエコロジー経済学を考える”／2005年度文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)に2件採択／新任教員紹介／卒業生の新刊図書／本学教員の新刊／Present For You／他

15

在学生・教員の活躍

OP COMMENTARY

小林久高 社会学部教授 「民主主義についての学生との対話」

13

LECTURE

公開講演会～ローマ法王の逝去を悼んで～

「ヨハネ・パウロ二世と社会的共通資本」 宇沢弘文専任フェロー(社会的共通資本研究センター長)

14



MY PURPOSE

アメリカでアイスダンスに挑戦する
～フィギュアスケートの新たな道へ～

・太田由希奈さん(政策学部政策学科1年次生)

27

卒業生の活躍

INTERVIEW ～同志社人訪問～

日本コカ・コーラ株式会社代表取締役社長
魚谷雅彦さんに聞く

20

MY JOB, MY LIFE ～シリーズ 私と「仕事」～

・辻内孝之さん(1993年法学部法律学科卒業)

・海野優子さん(2000年経済学部卒業)

23

ANNOUNCEMENT

25

環境問題を考える、 できることから行動する

今年2月、CO₂など温室効果ガスの排出削減義務等を定めた『京都議定書』が発効し、3月から9月まで開催された「愛・地球博」では、自然の叡智をテーマに最新の環境関連技術が紹介され、国内外から多くの注目を集めた。本誌では、学内の教育・研究活動のなかから、工学部機械システム工学科燃焼・噴霧工学研究室(No.135)や工学部環境システム学科(No.137)、エネルギー変換研究センター(No.140)などによる取り組みを紹介した。また今号では、竹の高度利用研究センター(P9参照)による持続可能な社会づくりをめざす研究も紹介している。このように、環境問題への関心が学内外を問わず高まっている中、今回は、在学生・卒業生の取り組みを中心に特集する。記事を通して、環境問題を考え、持続可能な社会のために何ができるか行動するきっかけとしてほしい。

京都府温暖化対策条例制定に向け キャンパスエコロジーの調査を行う

今年2月に京都議定書が発効したことを受け、京都府環境審議会は、郡島孝経済学部教授を委員長とする「温暖化対策条例検討専門委員会」を設置し、「京都府における地球温暖化対策のための条例のあり方」について京都府知事の諮問に基づき、答申取りまとめの取り組みを開始した。

この委員会に、栗栖智宏さん(経済学部4年次生)が学生としてただ1人参加した。栗栖さんは、郡島ゼミの幹事を務めるほか、街づくりのNPOや地域経済の勉強会に所属。大学の垣根を超え、環境問題を議論する機会も多いという。

今回、栗栖さんは、温暖化対策条例の一部である「大学や短期大学などの学生に対する環境生活指導」の具体化に向けた実態調査を担当した。「キャンパスエコロジーに関する調査」と題して京都府下の37大学を対象に「エネルギー排出量の推移」「環境マネジメントへの取り組みの度合い」「環境情報公開の有無」「学生に対する啓蒙活動の実施状況」という4つの項目からなるアンケートを作成し、郵送による調査を行った。

「集計の結果、環境対策に積極的な大学と



栗栖 智宏さん
【経済学部経済学科4年次生】

そうでない大学とに二極化していることがわかりました。大学の規模で見ると、短期大学や女子大学に比べ、学生数の多い総合大学の方が環境問題に熱心だといえます。項目別にみると、エネルギー排出量など環境情報の公開をしている大学はごく一部でしたが、学生に対する啓蒙活動は、キャンパス内の美化や教室退出時の消灯など、

大学ごとにさまざまな形で行われているようです」と栗栖さんは指摘する。ただ、これまで環境対策への取り組みがなかった大学にも一律に規制をかけ、急激な意識改革を求めるのは酷だと判断。「そこで、条例の制定に際しては、なるべく多くの大学が取り組みやすいように『学生に対する啓発活動』に絞るべきだと提言しました。京都府は学生の人口が多い都市ですから、条例の施策段階での波及効果が期待できることでしょう」。

同志社大学では、今出川校地に分別ゴミ箱が設置され、環境への配慮が進んでいる。一方、京都市では分別しなくてもゴミを出せる「混合回収」という方法を採用しているため、戸惑う学生もいるという。「分別と混合、両者の環境負荷を比較することは困難ですが、分別する作業を通してゴミをなるべく減らそう、無駄を省こう」という意識が芽生えるのだと思います。その意味で、分別回収が望ましいと考えます」。

学内への啓発活動も行っていきたいと語る栗栖さんは、同志社大学生生活協同組合発行『東と西』誌上(10・11・12月号)で環境問題についてのコラムを担当する。また、郡島ゼミの活動として、同志社EVEでのゴミ削減活動を企画中だという。「環境問題は地球規模で考えなければならず、確かに難しい。しかし、いかに自分自身の問題として認識できるかが重要なのではないだろうか」。

温暖化対策条例案は、来年度の施行をめざし府議会で審議される予定だ。

「京都R」の活動

「京都R」は、伝統産業が息づき、文化を守り伝える店舗が多い京都のまちに環境保護の知恵を見出し、紹介するための学生団体で、さまざまな活動を展開している。

京都Rが提唱するのは「2R型ライフスタイル」。一般には「3R」、すなわちゴミを減らす(Reduce)、資源を再利用し(Reuse)、再資源化する(Recycle)ことが重要だとされている。ただ、再資源化の過程で余分なエネルギーが必要となるので、僕たちは特に「Reduce」&「Reuse」の2つを優先して考えています。できるだけ長く使えるものを購入して「ゴミ」を減らし、また今使っているものは修理して何度も使う。何世代にもわたって受け継がれる着物や、修理を専門に行う職人さんの存在など、京都には昔から環境にやさしい伝統があります。このようなライフスタイルが可能なんだということを広く知ってもらいたい」と副代表の尾形浩一朗さん(経済学部経済学科4年次生)は語る。

京都Rではこの活動を京路地(京+エコロジー)と名付け、2R型ライフスタイルに共鳴する店舗や市民団体を取材し、ウェブサイトに掲載している。「まずは『修理』や

尾形 浩一朗さん

【経済学部経済学科4年次生】

松村 安希子さん

【経済学部経済学科4年次生】



『リユース』などのキーワードからインターネットで検索し、取材店をリストアップします。インターネットだけでなく、通りすがりにふと気になった店や、学生同士の口コミで得た情報を元に取材することもあります」と松村安希子さん(経済学部経済学科4年次生)。100店舗掲載すること

を目標に、約20人のメンバーが日々取材に駆け回る。リサイクルショップ、着物店、家具店、レコード・CDショップ、古書店など、取材先は多岐にわたる。松村さんは「古書店と一口に言っても、山岳関連本に強い、教科書の品揃えが豊富であるなど、それぞれ特徴を持っています。着物店には、普段着だけを集めた店、和服をアオザイにリメイクして販売する店など、個性的な店がたくさんあり、取材していて興味は尽きないです」と語る。これらの店舗情報をまとめた冊子『京路地 myracology』を発行し、2R活動をさらに広めていく計画だ。

京都Rでは、2R型ビジネスモデルの構築にも取り組んでいる。「ジーンズ再生販売プロジェクト」だ。きっかけは、尾形さんが取材で訪れたある染物店でのこと。「戦前から洋服の染め直しを手がけていると聞き、僕が長年履いていたジーンズを試しに染めてもらいました。ジーンズを染めるのは初めてだったのですが、驚くほどきれいに仕上がりました」(写真)。古いジーンズが見事に再生されたことに感心した尾形さんは、やはり取材で訪れた着物店で端切れがあつたことを思い出し、あて布として補修に利用できないかと考えた。「取材した



生協書籍部で販売

古着店から『在庫の古着を生地として再利用できないか』という相談を受けていたこともあり、持ち込まれたジーンズを染め直し、端切れや生地を補修して返すという仕組みを思いついたのです。現在は芸術大学の学生を交えてデザインを練りながら、試作品を製作中だ。将来はインターネットで注文を受け付け、好みに応じてリメイクできるようなシステムを作りたいという。



尾形さんは「環境を意識したライフスタイルに変えるために、理念的、抽象的なスローガンばかりを唱えても、定着させることは難しい。そうではなく、僕たちは普段の生活に何気なく溶け込む感覚を大切にしたい。ジーンズをテーマにしたことは、その象徴です」と説明し、松村さんは「私たちの活動を通して、環境への関心が自然に広がっていくことが狙いです。環境問題に詳しい一部の人のだけでなく、ごく一般人々にも、楽しみながら2R型ライフスタイルを理解してもらいたいです」と語る。京都Rの活動は、昨年度の経済産業省「環境コミュニティ・ビジネスモデル事業」に採択された。彼らにかかる期待は大きい。

<http://www.myracology.com/>

不用の家具・家電をゴミにしない 「キャンパスリユース」事業

京田辺校地に拠点を置き、学生と市民が一体となって地域活性化をめざすNPOきゅうたなべ倶楽部は、キャンパスを含めた地域環境保護にも取り組んでいる。このきゅうたなべ倶楽部を中心に、環境問題研究会、同志社ベンチャートレイン、同志社TAPなど学生団体の有志が始めた事業が「キャンパスリユース」だ。井上さんは2004年度のキャンパスリユース実行委員長として活動の指揮をとった。「京田辺市では、学生が卒業や引越する際、大型ゴミを捨てていくので問題になっていました。そこで、彼らから引き取った家電、家具、日用品を新人生に安く販売することで、学生に喜ばれ、環境にもやさしいビジネスモデルになると考えました」と事業の発端を説明する。

昨年度は、京田辺校地の学生食堂を販売会場とし、2月と3月に計3回開催した。18人のスタッフがレンタカーや京田辺市の車などに分乗して、京田辺市近辺から京都市内まで学生宅をまわった。回収した家具、家電は約500品。販売日までに運び込んだものはすべてびかびかに磨き上げ、ベッドなどの家具は組み立て直して、



井上 翔さん
【法学部政治学科3年次生】

値札をつける。大変な作業だ。スタッフの苦勞の甲斐あって、会場は盛況となった。「新人生だけでなく、地元市民の方も大勢来られました。洗濯機や冷蔵庫が特に人気でした」。タイムサービスなども効果を上げて、商品はほぼ完売。3回で約105万円の売上げとなった。経費などを除いた売上げの10%で、京田辺市に植樹する予定だという。



今後は、今出川校地での販売や、遠方の学生とインターネットでのやりとりをするなど、効率の良い方法を探っていきたいと語る井上さん。一番の課題は、この事業に不可欠な自動車の問題だという。2回目となる昨年度は、一昨年よりも多くの商品が集まったため、レンタカー費用が予想を大幅に超えてしまったそうだ。「この事業は環境保護に資するという面もあるので、CO₂の排出もできるだけ控えたい。そこでレンタカー会社の協賛を得て費用を抑えると同時に、低公害車を使えないかと考えているところです」。

井上さんがキャンパスリユース事業に参加した当初は、収益面への興味がほとんどだったという。「でも、回収されずに放置されている家電ゴミを目の当たりにして、自分たちの手でなんとかしたいという思いを強く持ちました。この事業を通して、私の中に確かな環境意識が芽生えたと思います」。井上さんは、今年度の実行委員となる後輩たちに、この思いを伝えたいと語る。

連絡先メールアドレス
dec2006@hotmail.com

同志社大学のエネルギー事情

本学の円滑な教育研究活動に対して欠くことのできない電気、ガスおよび水の2004年度の消費実績は、今出川・京田辺校地で、電力は2854万kWh、ガスは204万m³、水道は43万3000m³でした。それぞれについて、一般家庭の年間平均消費量と比較すると、電力が6800世帯分、ガスが3400世帯分、水が1400世帯分に相当します。これらの消費量に対して、地球温暖化に関わりがあるとして問題になっている二酸化炭素の排出量を、国の基準をもとに計算すると約1万4400トンにもなります。

また、エネルギー、水に対する費用として約7億5400万円が支払われており、2004年度の在籍学生総数(約2万3600人)から一人あたりの金額を算出すると3万2000円になります。この額が高いか安いかは各人の考え方によりますが、いずれにしても学生の皆さんが納入される学費の2.5〜3.5%に相当します。

以上、昨年度のエネルギーおよび水について述べましたが、これらの消費量は年々増える傾向にあります。教育研究機関として、節操のないエネルギー消費は厳に慎むべきです。ぜひとも、人のいない教室の電灯が点いていれば消す、洗面所での水の使用量を少し抑えるなど、小さな節約の積み重ねが大切です。教職員はもとより学生の皆さんにもご協力をお願いいたします。

(施設部)

ポスト京都議定書時代を迎えて、 環境のために私たちができること

地球環境戦略研究機関（IGES）研究員である島田久仁彦さんは、1997年に京都で開催された気候変動枠組条約第3回締約国会議（COP3、京都会議）に関わって以来、環境や安全保障問題の専門家として多くの国際機関での職務を歴任した。現在、研究の傍ら、日本政府代表としても国際交渉にあたる島田さんに、京都議定書発効以降の気候政策の概要と、環境保護のために私たちはどう行動すれば良いかを伺った。

今年2月16日、京都議定書が発効しました。京都議定書で定められた温室効果ガスの削減目標は、2008年から2012年までの間に、日本では60%、これは1990年の数値を基準としています。ところが、2003年で国内の排出量は8.3%も増加し、2012年までに14.3%も削減しなければなりません。これはかなり厳しい数値です。そこで、目標達成のために、京都メカニズムという仕組みが作られました。京都議定書が発効した時点で国際交渉の場での議論は一旦終わり、現在は国内レベルでどう実行していくか、という議論に移っています。

京都メカニズムは、日本の削減目標を効率的に達成するために市場メカニズムを採用入れた制度です。先進国と途上国が共同で環境事業を実施し、削減分を投資した先進国が自国の目標達成のために利用できるクリーン開発メカニズム（CDM）、先進国間で共同事業を実施し、投資側の国が削減

減分を利用する共同実施（JI）、そして先進国間で排出量を売買する制度である排出量取引などがあります。現在は、京都メカニズムをフル稼働させ、第1約束期間である2012年までに、削減目標を達成するためにどのような施策が必要かを、政府や環境省などの関係省庁に提案しているところです。京都議定書で定められた削減目標のうち16%をこの京都メカニズムで補う計画で、具体的には日露2国間の共同実施、日本から途上国に対する排気ガス処理技術の移転、再生可能エネルギーの研究などを行っています。

一方、京都議定書以降の問題も考えなければなりません。つまり、2013年から先どのような国際的枠組みを作り、地球環境を保全していくか、という問題です。今年11月末から12月にはモントリオールで気候変動枠組条約第11回締約国会議・京都議定書第1回締約国会議（COP11・MOP1）が開催され、ポスト京都議定書に

向けた国際的な交渉がスタートします。私は政府代表として出席し、地球環境にとって良い方策を法的、経済学的、自然科学的な側面から提言する予定です。

日本には四季がありますが、最近少しずつ崩れてきていることに気付いているでしょう。私たちが子どもの頃、桜は入学式の頃に咲くものでしたが、今は卒業式の頃に咲きます。台風が頻繁に上陸するようになったり、寒暖の差が激しくなったりするの、およそ20年前に温室効果ガスを大量に排出した行動がストックされていたことによるものです。今日起こした行動は明日、深刻な問題にはならないかもしれない。しかし、自分たちの子どもの世代には大きな影響を与えます。「もう問題は起きている」と考えてほしいのです。

環境保護には、国・地域単位の施策はもちろん必要ですが、個人レベルでの取り組みも非常に重要です。それは、髪を洗う時には一旦シャワーのお湯を止める、近距離の移動には自転車を利用するなどの「小さなことからコツコツと」の精神です。ただ、強調しすぎると拒否反応を示す人もいます。「環境にやさしい」行動に対しては、どこか格好悪いというイメージがあるようです。そこで、私から学生の皆さんにお願いしたいのは、「地球のため、自分たちの将来のために何か行動を起こすことは格好良いんだ」というトレンドを作り出すことです。どんなことでも構いません。例えば、同志社大学で若者が持ちたがるようなデザインのエコバッグを作ってもいいと思います。「環

境にこだわりのあるバッグを持つことが格好良い」という発想です。

幸いなことに、同志社には自由な校風があります。同志社で育んだ発想力、創造力を発揮して、アイデアをどんどん出して欲しい。そして、広く受け入れられる「格好良い」要素を加えて欲しいと思います。学生の皆さんが出すアイデアには、皆さん自身の想像以上に、企業も政府も注目しています。若い世代から声を挙げて、社会の流れを変える。そうでないと、地球環境問題を解決することはできません。



島田 久仁彦さん
【1998年法学部政治学科卒業】
財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）
気候政策プロジェクト研究員

米國アーモスト大学で政治学、ジョンズ・ホプキンス大学国際高等戦略研究院（SAIS）で国際経済学、紛争解決、環境政策を研究し、国際学修士号を取得。国連気候変動枠組条約（UNFCCC）事務局（COP3担当）、国連事務局国際経済社会問題担当局、地球環境ファシリティー（GEF）などに勤務。2004年2月から現職。

環境への取り組みは、 地道な活動がカギ

環境対策に20年以上にわたり取り組んでいる森下研さんは、エコマークの生みの親、育ての親の1人でもある。大学在学中から空き缶問題に関わり、その後、環境コンサルタントとしてさまざまな制度や企業向けガイドラインの策定に関与した。現在は株式会社エコマネジメント研究所を設立し、社会システムの調査やコンサルティング業務を行っている。森下さんはどのように環境問題に関わり、スペシャリストになったのか、また環境問題に取り組む際に必要な心構えを伺った。

環境問題に関わるようになったのは学生時代、1980年頃のことでした。当時は飲料の自動販売機が急速に普及した時期。京都市内では観光客がボイ捨てした空き缶が散乱し、街の美観を損ね、飲料メーカーなどの責任を問う声が大きくなっていました。そこで京都市は、市民や事業者と連携した空き缶対策のコーディネートを東京の環境コンサルティング会社、ドウタン・ダイナックスに依頼しました。都市環境の専門コンサルティングを行う企業はまだ珍しかった時代です。私は、その会社で散乱状況調査のアルバイト頭（がしら）をするようになりました。清滝、大原、嵐山、嵯峨野などの観光地をくまなく回り、ひたすら空き缶を拾い、その散乱状況や組成を調べるといふものです。どういう場所で捨てられ、どう拡散しているのかを追跡することは、行動心理学にも通じるものがありました。拾った空き缶は数万個を数えました。この作業は単純に楽しいものだと感じられ、次第にのめり込んで

いきました。こうして分析したデータをもとに、観光客への啓蒙活動や回収容器の適切な配置、観光客誘導の立て看板設置などといった美化システムを完成させることができました。また、京都市環境美化事業団（現在のまちの美化推進事業団）も設立されました。ほかに、北海道から沖縄まで全国の自治体を訪問してリサイクルシステムの状況を調査するなど、各地の街づくり、社会の仕組みづくりの仕事を没頭し、夢中になって現場を積み重ねていくうちに10年が経ちました。いつの間にか、私の中には確固たる環境意識が芽生えていました。

このような活動を続けているうち、私たちの環境教育勉強会に参加していた環境庁（現在の環境省）の方から、エコマーク事業の立ち上げに協力してくれないかという話をいただきました。環境保全に望ましい製造方法や環境負荷の小さい商品、リサイクルしやすい商品を推奨し、普及させる。まだエコマークという言葉はなく「環境保全型商品推進事業」と呼んでいました。この事業は市民や産業界に受け入れられるのか、受け入れられるにはどのような条件が必要か、どのような製品で施策すべきか。2年間検討を重ねて、1989年にエコマーク制度をスタートさせることができました。エコマークのエコは「エコノミー」のエコだと思われた時期もありましたが、現在は42種類の商品類型、約5,000ブランドの商品にエコマークが付けられるまでに成長しました。やがて、エコマーク事業で多くの企業の方々と関わったことを契機に、企業をどういう方向に導けば環境と経営を両立できるのかという問題意識が生まれました。そこから環境省の環境報告書、環境会計、中小企業などの環境保全取り組みを支援する「エコアクション21」などといったガイドラインづくり、制度づくりに関わることができました。空き缶対策から始まり、私の環境コンサルタントとしての仕事はこのようにつながり、発展してきたことになります。



森下 研さん

【1977年法学部政治学科入学】
株式会社エコマネジメント研究所
代表取締役社長

株式会社ドウタン・ダイナックス入社後、株式会社ダイナックス都市環境研究所取締役を経て、1991年、エコライフの普及とエコマネジメントの健全な発展を図るための組織、日本エコライフセンター設立に参加し、事務局長就任。1993年、株式会社エコマネジメント研究所を設立。リサイクルシステムづくり、企業等の環境対策・環境監査の推進、LCAの研究等を行う。

能力です。確かに知識は必要ですが、知識だけで終わらせず、できることから行動してください。体験を積み重ね、基礎とすることで初めて判断力が身に付くのです。また、「自分の問題」という意識がないと、行動には表れません。「自分1人くらい」という気持ちを捨てなければ、世の中は変わらないのです。

今現在、環境コンサルティングの大きな課題は、経済活動の発展と環境保護とが両立できる「持続可能な社会」のシステムを作り上げることです。環境保護に興味を持った学生の皆さんの中から、明日の環境問題を背負って立つ人材が生まれることを期待しています。地道に頑張れば、必ず道は開けると思います。

始動！！ 走り出す

2005年4月、京田辺校地の夢告館から同志社大学で9番目となる文化情報学部が始動しました。文化情報学とは、人間のさまざまな「文化」を、データサイエンスの手法で客観的に読み直す文理融合型の新しい研究です。文化情報学部では、文理の壁を超えた柔軟な発想と広い視野で社会に貢献する人材の育成をめざしています。

取材・編集／並木晴香、上田卓、竹島舞依子、紀ノ定保礼、田中沙恵、
川西知世、坂野真由美（文化情報学部1年次生）



文化情報を「つ」かく しようプロジェクト

文化情報学部では、この新しい学問の創造に、学生自らも問題意識をもって積極的に関わり、その発展の一翼を担うことを願い、この未来への挑戦を学部全体で進めるための学生プロジェクトチームを設け、その活動を支援しています。

現在彼らは、文化情報学という新しい学問の可能性を示す実体験をふまえた研究紹介コンテンツの制作（情報的要素とその広報プロデュース（文化的要素のコラボレート）を、実際の学部企画を進める中で勉強しています。

学生たちは、各々が自分にとっての文

化情報学とは何かを問いながら、その具体的なビジョンを得るための議論をすすめ、これまでにない新しい学問を構築するための力を鍛え、それをふまえた研究への模索を始めています。

（文化情報学部助教授 鋤柄俊夫）

学生プロジェクトチームの活動

プロジェクトのメンバーは、各自の関心あるテーマによって、現在約10のチームに分かれて活動しています。

主な活動チームは、私たちと学部の活動をweb上で公開するホームページ作成チーム、学部の教育・研究をアライブするビデオ作成チーム、学部生の交流を図るイベントチーム、今回このページの制作にもあたった編集局チームなどがあります。また、鳩山由紀夫客員教授の特別講義に際しては、サポートチームを組んで事前学習をし、ポスターによる広報活動やインタビューを実現させました。

さらにこういったチームとは別に、学部説明会やオープンキャンパスなどにも私たちが積極的に参加しています。

この学部で学ぶ重要なテーマの1つが、適切で詳細な文化情報の取得です。この学部には、そのために必要な先端機器が多数設置されていますが、学部説明会では、それらの実験も行いました。

行動心理を測定するために視線を追うアイカメラ、さまざまな文化遺産を3次元で測定しアライブするためのレーザー測



定器や3Dピンスキャナ、絵画の筆づかいまで読み取ることでできる1億8000万画素の高精細スキャナ、文化資料を元素レベルで測定する蛍光X線分析装置、地球規模で文化を測定するGPS電子平板などなど。私たちは、これらのこれまで見たことも、触ったこともない最先端の情報取得機器を授業で使いこなしていく予定です。

（竹島舞依子）

「最先端機器を実際に扱ってみて、文化情報学部のこれからの学びに実感がわいてきました」（東峰裕之）
「高校生に学部説明を行うことで、文化情報学のさまざまな可能性を考えることができました」（小笹頌太）

特集2

文化情報学部 新たな伝統が

このような編集を行うのはみんな初めてでしたが、撮影・取材・執筆などの仕事を分担して進めてきました。撮影では文化情報学部を象徴する場面を選び、取材では授業風景や学生からの感想を集め、新しくできた自分たちの学部を少しでも多くの人に知ってもらえるように、夢告館中を駆け回りました。文化情報学部と文化情報学部生の今後の活躍に、ぜひ注目してください。

(並木晴香・上田卓)

こんな授業を受けています

文化情報学部では、これまで同志社大学になかった新しい授業が行われています。必修科目の集中している春学期火曜日の1日を紹介します。

2講時はこの学部の基本を学ぶ「文化情報学」です。社会調査データの読み取り方や、さまざまな文化現象を解析するための基礎知識を学びます。

3講時は「データサイエンス入門」。情報化社会での複雑な問題の解決手段を見出すように、データの取得から分析・考察までが講義されます。

4講時は「データサイエンス入門演習」で、3つのクラスに分かれて行われる実習授業です。3講時に学んだ内容に即してエクセルを使った情報処理を学んでいます。毎回「データからの知識発見」を経験しています。

秋学期から、いよいよ本学部独自の授業であるコロナムが始まります。色々々分野の研究に接して、文化情報学について関心を深めていきたいと思っています。

(竹島舞依子)

「データに対するさまざまな考え方を学ぶのは初めてでしたが、その中から文化情報学への興味が一層高まりました」(樺惇志)
「デジタルデータを駆使したポスターを作成することで、学部プロジェクトに参加できたことは、貴重な体験になりました」(青山友香)

鳩山由紀夫客員教授特別講義

7月11日、文化情報学部の客員教授に就任された鳩山由紀夫先生の特別講義が行われました。

鳩山先生って政治家では？ と思う人も多いと思いますが、実は先生は東京大学を卒業後、スタンフォード大学でオペレーションズリサーチで学位を取得された、情報と社会の専門家なのです。

今回は「生活の中の情報と意思決定」というテーマで特別講義をしていただきましたが、その時のインタビュで情報との関わり方についてのアドバイスをいただきました。

「情報と一口に言うけれども、その中には正確なものが非常に多い。そういった

膨大な情報を前にして、どれが正しく、どれが間違っているかを見極めるのは非常に難しい。例えば新聞情報も、そこに書いてあることが全て正しいと思われるが、実際に自分が書かれると必ずしもそうだったことばかりではないこともままある。

そういった情報に対して、データの正確性を見抜くためのテクニックを鍛えることが非常に重要である。そのためには、氾濫している情報を鵜呑みにせず、情報に惑わされないような多くの経験と広い視野を持つような修練をすることが必要。さらに、情報をいかに編集するかということも重要である。情報の編集をするためには、情報を理解できないといけない。こういった情報の編集技術というものは、これまで学問ではないと思われていたが、実はこれからの社会にとっても大事なことになるてきている。皆さんのこれからの活躍を楽しみにしています」。

最初は緊張しましたが、なかなか雰囲気話をするのができ、大学生生活や情報についてのアドバイスをいただき、とても勉強になりました。授業は「野球のオペレーションズリサーチ」など興味深い内容のもので、文化情報学を学ぶ意欲がさらに湧いてきました。

(田中千紗子)



QRコード
学生プロジェクト
チームサイトへ

「竹」研究の 最先端を担う

2003年4月に開設された「竹の高度利用研究センター」。応用工学の視点から竹の有効利用のための研究を行い、循環型社会への貢献をめざしている。天然資源としての竹の有用性には産業界も注目しており、同センターに寄せられる期待は大きい。センター長の藤井透工学部教授にお話を伺った。

私たちの身の周りには、化石資源の1つである石油（あるいは、石炭、天然ガス）からつくられたプラスチックなどの化学製品があふれています。しかし、石油の例を持ち出すまでもなくこれらの資源は有限です。また、例えば、プラスチックは製造過程や廃棄処理時にCO₂の発生を伴うため、地球温暖化など環境に与える負荷が大きいという問題を抱えています。こうした点を踏まえ、近年はサステイナブル（持続可能）な社会システムづくりの一環として、再生産可能な天然資源、特に植物を代替資源とした材料の開発が進められてきました。

植物資源といえばジュートやケナフがよく知られていますが、私たちが注目したのは竹でした。竹は強くて軽く、生長力に富み、東アジアから東南アジアにかけて広く成育しているため天然資源としてたいへん魅力的です。しかし、古くから建材や日用品など、さまざまな用途で使われてきた割には植物学的のみならず、これを工業資源として応用

しようとする研究は行われてきませんでした。私たちは1990年代前半からこの竹に着目し、積極的に研究を進めてきました。そして、1997年には学術フロンティア事業の1つのテーマに選定されるとともに、翌年には文部省の補助金を得て「竹繊維とその利用」をキーワードに工学部の10人の教員が参加する大学院高度化推進事業「新技術開発研究」もスタートしました。2003年4月には竹の基礎科学と有効利用について専門的に研究する「竹の高度利用研究センター」を開設するに至りました。現在、工学、農学、医学、環境学の各分野から、3人の客員フェロー（米国、オランダ、ベトナムを含む22人の専門家が集まり、「基礎科学」、「新機能」、「バイオテクノロジー」、「高度利用」の4つの領域から実用化に向けた総合的なアプローチを試みています。

数ある竹の特性の中で、「高度利用」の観点から私たちが特に注目しているのが、竹の剛性・粘り強さの源である竹繊維です。竹繊維は「天然のガラス繊維」と呼ばれるくらい高い強度と剛性を備えているのです。既存のガラス繊維は、プラスチックの強化材として用いた場合、製造プロセスで大きなエネルギーを必要としCO₂を大量に発生します。廃棄時の焼却処理も大変です。焼却炉内では900℃もの高温に達するため炉に障害を与えます。そこで、プラスチックに混ざるガラス繊維の代替素材として竹繊維を用いる

技術開発を進めています。トウモロコシなどを原料とするバイオプラスチックと組み合わせれば、廃棄処理時にも環境負荷が小さい複合材料ができるはずです。

竹の特性にミクロスケールで迫る先端的研究も行っています。竹の強さの秘密は、セルロースミクロフィブリルと呼ばれるセルロースの結晶にあります。ナノレベルの極小サイズでありながら、鉄の5〜6倍の強度が確認されており、IC基盤などへの活用を視野に入れて研究を行っています。そのほかにも、センターでは竹繊維をスピーカーボックスに内蔵されている吸音材として利用したり、竹繊維を固めて釘やピンの代用品とする試みも行



Toru
Fujii

藤井 透

【竹の高度利用研究センター長・工学部教授】



うなど、数多くの実用化研究を進めています。ただ、商品化にあたっては、まだいくつかの課題を残しています。採算面においては、日本の竹は高価過ぎるのです。したがって、実用化の段階ではインドネシアの竹を用いることを考えています。竹繊維を抽出する方法も、本研究センターで行っている爆砕処理ではなく、その国にあった方法を採用し、製造コストを抑える方向で検討しています。

竹に対する関心は年々高まりを見せ、国内外の企業や研究機関、行政機関からの問い合わせも昨年だけで100件を超えています。企業とのビジネスマッチングにおいても良い方向に進んでおり、最近の例では、給食食器メーカーと協力し、竹繊維を60%以上使用して強度と断熱性を備えた「環境教育食器」を開発しました。近く、東京都多摩地区の給食用食器として供給される可能性がある

と聞きます。このほか、幾つかのメーカーと長期的な視野に立った共同研究も進行しています。守秘契約を締結した共同研究の成果は原則非公開ですが、私たちの生活と環境改善に役立つ学術的研究成果については積極的に外部に公開し、新産業・新技術の創出に役立ててもらおう方針をとっています。TLO（技術移転）による竹資源の利用と社会への貢献は、本研究センターの目的の一つだからです。

本研究センターは竹の研究をリードする世界的な拠点として、内外の研究機関とのネットワークづくりにも努力しています。提携先の一つであるベトナムのハノイ工科大学ポリマーセンターとは、竹をテーマにジョイントシンポジウムを開催。日本とベトナムから19

人も研究者が参加する講演会を開催し、互いの研究知識を交換するなど非常に有意義なものとなりました。オランダのデルフト工科大学やアメリカのコネ

ル大学とも交換留学を実施するなど、着実に国際的ネットワークづくりに成果を上げています。竹繊維抽出のノウハウを学びにくる留学生も多く、世界中で竹の利用技術の研究が進むことが期



待されます。また国内に向けては、環境教育の一環として、高校生を対象とした2泊3日のウインター・サイエンスキャンプを実施。竹繊維を用いたサンドボードづくりを通して、環境活動の重要性と天然繊維の良さが実感できたと好評を得ています。このほかにも、竹の強さを体験しながら最先端技術との関わりを教えるイベントも数多く実施しています。

私たちのミッションは、竹の有用性をより多くの人に啓蒙し、サステイナブルな発展型社会の原動力として竹を利用してもらうことであり、今後、さらに竹が持つ未知なる部分を追究し、より高度な竹の利用技術を提案していきます。



2004年度 大学決算について

財務部 経理課

2004年度大学決算は、2005年5月12日開催の大学予算委員会および大学評議会、5月28日開催の理事会で承認されました。

2004年度は、新設した学部学科、研究科の円滑な運営に注力するとともに、教育研究条件の整備充実を図るための事業として、教育開発センターの設置、GPA制度導入等に伴う教務システムの開発、マルチメディア教室や図書館の整備、e-Learning環境の整備などを重点的に実施しました。また、学生支援事業として、学生寮の改修、「同志社大学特定寄付奨学金制度」の創設、課外活動支援の強化、キャリアアドバイザーの採用を行いました。そのほか、一般入試に「全学部日程」を追加するなどの入試制度見直し、東京オフィスの拡充、東京リエゾンオフィスの開設、新設学部の周知広報などにも取り組みました。

建設事業では、臨光館（新町）、夢告館、恵喜館、京田辺第2特高電気室（以上京田辺）などの建設事業やJR同志社前駅の整備事業、クラーク記念館の保存修理事業、同志社小学校設置に係る整備事業を実施しました。

このように2003年度に引き続き大規模な事業を展開しましたが、入学者数の確保、入試志願者数の増加とともに、補助金や事業収入など外部資金の導入が進んだ結果、収支バランスの改善を図ることができました。

以下、収支計算書に基づき主な収支の内容について説明します。

収入の部

学生生徒等納付金は247億円で、帰属収入に占める割合（学納金比率）は75%と大きな比重を占めています。

手数料は15億円で、入学検定料が主なものです。

寄付金は3億円で、教育研究施設等整備資金寄付金、奨学寄付金、寄付教育研究プロジェクトなど教育研究活動への寄付金、奨学事業への寄付金、機器備品や図書などの現物寄付金を受入れました。

補助金は40億円で、国庫補助金が主なものです。このうち経常費補助金については、一般補助は補助金配点の上昇により、また特別補助は法科大学院支援経費など新規補助項目の追加や申請経費の増加などにより、大きく増収となりました。その他の国庫補助金では施設設備対象の補助金として研究装置、情報通信装置などの採択を受けました。

資産運用収入は4億円で、基本金引当資産の運用収入および預金などの受取利息・配当金、施設設備利用料収入などです。

事業収入は4億円で、企業からの受託研究費などの受託事業収入および補助活動、付属事業収入が主なものです。

雑収入は10億円で、私立大学退職金財団からの交付金収入が主なものです。

繰出金は3億円で、法人内諸学校からの資金調達額の返済額が主なものです。

分担金は1億円で、法人業務に係る法人内諸学校の負担分です。

固定資産除却額は13億円で、旧臨光館などの解体除却および機器備品の償却期間完了に伴う除却額です。

前年度基本金組入額繰延額は5億円で、前年度から繰り延べられた旧漢水館などの解体除却に係る固定資産減少額を、今年度の基本金組入額の減額項目として計上しているものです。

借入金等収入は1億円で、学校債発行による借入額です。

第2号基本金取崩額は20億円で、夢告館、恵喜館などの建設資金および研究装置の取得資金のための取崩額です。

特定支出準備金取崩額は2億円で、使途が特定された準備金の取崩額です。

収入の部合計は368億円となり、手数料、補助金などの増額により予算に対して19億円の増収となりました。

支出の部

人件費は162億円で、帰属収入に占める割合（人件費比率）は50%となりました。学部学科、研究科の新設および教員充実計画による増員や、退職給与引当金引当率の引上げに伴う繰入額の増加などにより、前年度に比べ12%上昇しました。

教育研究経費は109億円で、経常的な教育研究活動に要した経費です。研究費および実験実習費などの予算繰越による執行残、光熱水費の節減などにより、予算に対して3億円の減少となりました。

管理経費は14億円で、大学の維持管理や学部学科、研究科の開設準備に要した経費です。

繰入金は22億円で、主に女子大学による薬学部棟建設のための法人内資金調達額です。

施設関係支出は37億円で、夢告館、臨光館、恵喜館その他の建設事業やクラーク記念館の保存修理事業、小学校設置に係る整備事業などによる支出です。

設備関係支出は18億円で、教育研究用機器備品、図書などの固定資産取得に係る支出です。

翌年度基本金組入額繰延額は2億円で、固定資産取得額を上回る除却額があるため、基本金組入額を翌年度に繰り延べるものです。

借入金等返済支出は4億円で、償還計画に基づき計画通り返済しました。

第2号基本金組入額は、組入計画に基づき、教学施設整備資金12億円、研究装置設備等整備資金2億円、情報基盤整備資金1億円の合計15億円を組み入れました。

第3号基本金組入額は、組入計画は2003年度をもって終了しましたが、使途特定寄付金を奨学金基金などに組み入れました。

第4号基本金組入額は、法人全体の組入計算に基づき必要額を組み入れました。

特定支出準備金繰入額は2億円で、使途特定寄付金および研究費などの予算繰越額を決算において繰り入れたものです。

支出の部合計は391億円で、予算に対して5億円の増加となりました。

収支差額

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた当年度消費収支差額は23億円の支出超過となり、帰属収入の増加などにより、予算に対して15億円改善しました。しかしながら、累積消費収支差額としては220億円の支出超過額を翌年度以降に繰り越すこととなります。

借入金

借入金残高は、前年度末に対して3億円減少し、当年度末では25億円となりました。

自己資金の不足額

消費支出超過額は内部資金の不足額であり、借入金は外部資金への依存額です。したがって、この両方を合わせた金額が自己資金の不足額となります。

前年度末の不足額は226億円でしたが、当年度末は20億円増加して246億円となりました。

（本文中の金額については1億円未満を四捨五入しています）

■収支計算書

2004(平成16)年4月1日から2005(平成17)年3月31日まで (単位:千円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学 生 生 徒 等 納 付 金	24,627,570	24,676,022	△ 48,452
手 数 料	1,212,600	1,516,546	△ 303,946
寄 付 金	259,350	334,233	△ 74,883
補 助 金	2,929,920	3,969,860	△ 1,039,940
資 産 運 用 収 入	339,630	370,376	△ 30,746
資 産 売 却 差 額	0	4,321	△ 4,321
事 業 収 入	328,900	400,504	△ 71,604
雑 収 入	867,340	988,302	△ 120,962
繰 出 金	330,580	331,469	△ 889
分 担 金	121,740	121,740	0
(帰 属 収 入 合 計)	(31,017,630)	(32,713,373)	(△ 1,695,743)
当 期 固 定 資 産 除 却 額	1,114,590	1,270,362	△ 155,772
前 年 度 基 本 金 組 入 額 繰 延 額	499,250	499,247	3
借 入 金 等 収 入	100,000	67,300	32,700
当 期 未 払 金	0	68,624	△ 68,624
第 2 号 基 本 金 取 崩 額	1,953,500	1,953,500	0
(基 本 金 過 年 度 組 入 額、未 組 入 額 合 計)	(3,667,340)	(3,859,033)	(△ 191,693)
特 定 支 出 準 備 金 取 崩 額	147,770	199,133	△ 51,363
[収 入 の 部 合 計]	[34,832,740]	[36,771,539]	[△ 1,938,799]

用 語 解 説

● 収 支 計 算 書 ●

学校法人会計基準に基づく消費収支計算書においては基本金組入額を帰属収入から控除して表示しているため、収支の内容をよりわかりやすくするために、消費収支計算書に基本金組入計算に係る各項目をそれぞれ収入・支出の部に計上したのが「収支計算書」です。

● 基 本 金 ●

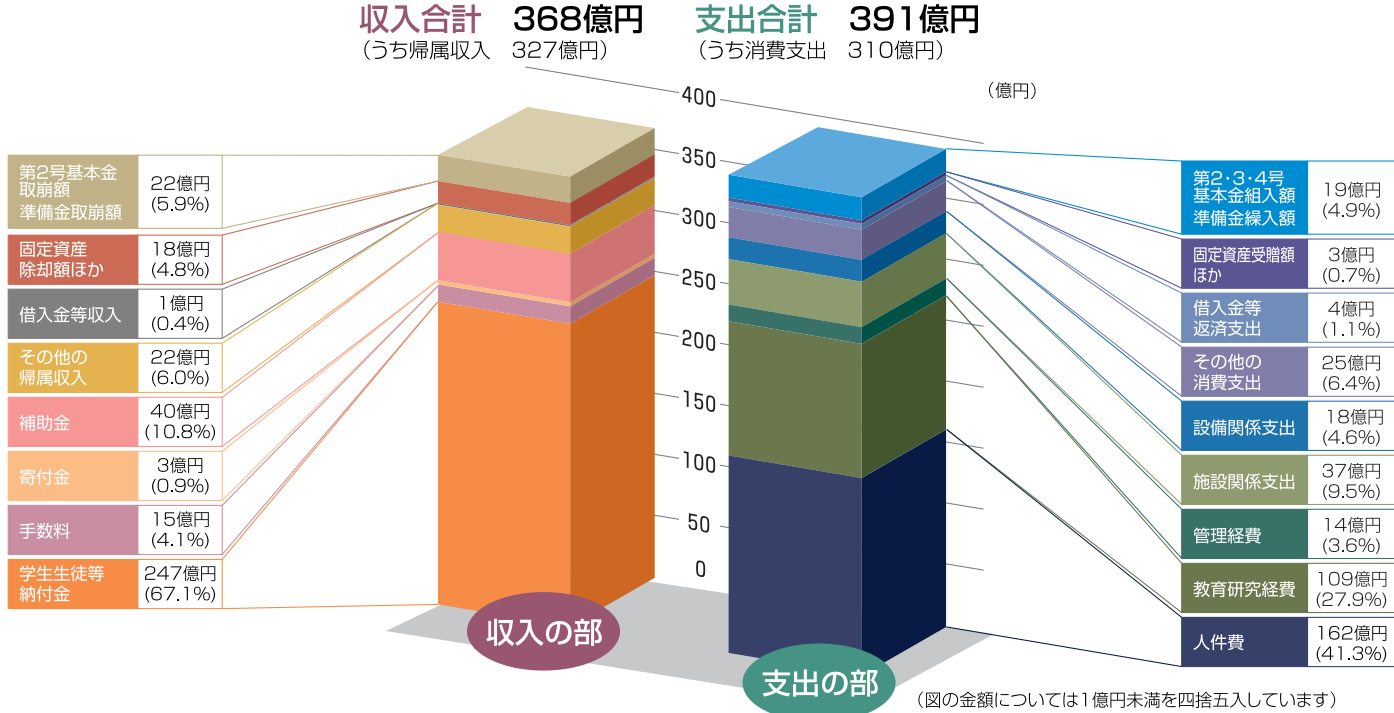
第1号基本金は、学校法人が、教育研究活動に供するため、自己資金により取得した固定資産の価額です。
収支計算書において第1号基本金組入額は、支出の部に取得した固定資産(施設関係支出、設備関係支出、現物寄付資産)の額を表示し、さらに過年度取得した固定資産に係る借入金等返済支出を表示しています。また、収入の部に固定資産取得に係る借入金等収入、固定資産除却による再取得価額などを表示しています。
第2号基本金は、将来取得する固定資産に充てるための資金です。
第3号基本金は、基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金です。
第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金として学校法人会計基準が定める額です。

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人 件 費	16,035,430	16,226,876	△ 191,446
教 育 研 究 経 費	11,177,780	10,895,090	282,690
消 耗 品 費 他	8,241,350	7,958,469	282,881
減 価 償 却 額	2,936,430	2,936,621	△ 191
管 理 経 費	1,441,940	1,394,486	47,454
消 耗 品 費 他	1,370,320	1,323,165	47,155
減 価 償 却 額	71,620	71,321	299
借 入 金 等 利 息	91,230	91,233	△ 3
資 産 処 分 差 額	59,050	84,164	△ 25,114
徴収不能引当金繰入額	65,770	60,003	5,767
徴 収 不 能 額	0	9,238	△ 9,238
繰 入 金	2,000,000	2,247,231	△ 247,231
予 備 費	100,000	—	100,000
(消 費 支 出 合 計)	(30,971,200)	(31,008,321)	(△ 37,121)
施 設 関 係 支 出	3,456,550	3,746,733	△ 290,183
設 備 関 係 支 出	2,105,100	1,789,731	315,369
当 期 固 定 資 産 受 贈 額	0	76,318	△ 76,318
翌 年 度 基 本 金 組 入 額 繰 延 額	890	159,746	△ 158,856
借 入 金 等 返 済 支 出	356,980	356,980	0
前 期 未 払 金	63,080	63,085	△ 5
第 2 号 基 本 金 組 入 額	1,500,000	1,500,000	0
第 3 号 基 本 金 組 入 額	14,200	14,200	0
第 4 号 基 本 金 組 入 額	166,600	166,600	0
(基 本 金 要 組 入 額、当 年 度 組 入 額 合 計)	(7,663,400)	(7,873,393)	(△ 209,993)
特 定 支 出 準 備 金 繰 入 額	18,380	224,213	△ 205,833
[支 出 の 部 合 計]	[38,652,980]	[39,105,927]	[△ 452,947]

収 支 差 額 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
(当 年 度 消 費 収 支 差 額)	(△ 3,820,240)	(△ 2,334,388)	(—)
消費支出準備金繰入額	0	0	—
消費支出準備金取崩額	1,521,810	14,415	—
[繰入取崩後当年度消費収支差額]	[△ 2,298,430]	[△ 2,319,973]	[—]
[前年度繰越消費収支差額]	[△ 19,711,290]	[△ 19,711,291]	[—]
[翌年度繰越消費収支差額]	[△ 22,009,720]	[△ 22,031,264]	[—]

借 入 金			
科 目	予 算	決 算	差 異
[前 年 度 未 借 入 金 残 高]	[△ 2,866,670]	[△ 2,866,671]	[—]
当 年 度 借 入 額	△ 100,000	△ 67,300	—
当 年 度 返 済 額	372,180	402,581	—
[当 年 度 未 借 入 金 残 高]	[△ 2,594,490]	[△ 2,531,390]	[—]

■収支構成図



民主主義についての学生との対話

講義で政治社会学関係のややこしい議論をする前に、「民主主義」について簡単に説明しなければならぬことがある。「民主主義は知ってますね。民主主義って多数決を採用しますね」。「ここまではみんなの常識だ」「じゃあ、今クラスのだれかをいじめようというワート多数決で決めたら、それは民主主義かなあ。このあたりになると曖昧になってくる。「それは民主主義じゃあない」なんて答えが返ってくるのが一般的だけれど、「でも多数決で決めたじゃない」なんて言う学生は答えにつまる。そこで、一から説明しなければならなくなる。

「民主主義において多数決が採用されるのは多数意見が正しいという意味からじゃありません。それは逆なのです。正しいことは、最初は少数の意見であっても、多数に理解されるというのが多数決が採用される根拠なのです。このプロセスをうまく機能させるためには対話が重要になってきます。それがなければ正しい少数意見は多数意見にはなりませんからね。民主主義では多数決という決定ルールをとりながらも、少数意見の尊重ということがいわれます。これは、少数意見がいつでも対話によって多数意見

になる可能性を保証しなきゃならないということです。そして、対話によって形成された多数意見によって決定が行われるのが民主主義です。こういう具合に考えると、さききの決定では『ワートと決めたら』というところが問題になります。対話がなければ民主主義とはいえないのです」。

ここまでの話で納得する学生が多い。しかし、「対話を経れば正しい結論を得るなんておめでたすぎるよな」という顔をしている学生も少なくない。だから私は続ける。

「君たちも感じているように、これは実におめでたい前提に基づくシステムです。しかし、考えるべきことは、おめでたい状態を現実のものとするためには何をすればいいのかということですね。民主主義をうまく作動させるには、対話を保証する制度が不可欠です。言論の自由とか集会の自由とかいったものはこれにあたる。それらはそれ自体で価値あるものですが、民主主義という意思決定システムを作動させるために必要不可欠な歯車なのです。情報公開なんかもこの文脈でとらえられますね。それは正しい多数派が形成される条件なのですから。それでも懐疑的な顔をして「民主主義も失

敗するじゃんか」といった顔をしている学生がいる。そこで私は続ける。「それでも民主的決定は間違っていることがあります。私たちの社会も多くの失敗をしてきましたよね『民主主義はだからダメだ』という前にダメにならない条件をさらに考えましょう。未来の失敗を避けるためには、過去の決定が正しく記録されていることが必要です。その情報をもとにして議論をして決定していくことが次の失敗を避けることにつながるからです。失敗も成功も記録するということは、正義とか責任とかそういうことだけではなく、次の民主的決定をできるだけ成功させるために重要なことなのです」。

「民主主義は何よりも合理的な判断のできる人々を前提としています。教育機関のひとつの役割はそういう人材を育てることにあります。君たちは何ものにもとらわれず、自由に合理的に考えることができるようにならなければなりません。君たちは自由は権利だと思っているかもしれないけれど、君たちの自由は義務でもあります。それは社会が君たち学生に課している義務なのです」。私は恥ずかしさを感じながら真顔でそんなことを言う。学生たちもたいそう恥ずかしそうにして

いる。われわれは恥ずかしさを共有しながら民主主義の原理と自由の重要性を確認するのである。

私は、ひねくれながらも真直ぐで恥ずかしがり屋の学生たちに大いに期待している。

社会学部教授

小林 久高

1958年大阪府生まれ。1982年関西学院大学社会学部卒業。1988年関西学院大学大学院社会学研究科博士課程(後期課程)単位取得満期退学。奈良女子大学助教授、島根大学教授を経て2004年10月に同志社大学文学部へ。2005年4月から現職。専門は社会意識論、政治社会学。



公開講演会 ～ローマ法王の逝去を悼んで～

「ヨハネ・パウロ二世と社会的共通資本」

6月11日、今出川校地至誠館で、社会的共通資本研究センター長、宇沢弘文専任フェローが講演を行った。宇沢専任フェローは1928年鳥取県生まれ。東京大学理学部数学科卒業後、スタンフォード大学準教授、カリフォルニア大学助教授、シカゴ大学教授、東京大学教授などを歴任した数理経済学の世界の権威だ。今回、40年来の研究テーマである社会的共通資本研究の集大成『Economic Analysis of Social Common Capital』が出版されるにあたり、社会的共通資本の理解者であった故ヨハネ・パウロ二世との交流や、本研究が社会に果たすべき役割について語った。

J.R. 福知山線脱線事故の犠牲者と前ローマ法王故ヨハネ・パウロ二世に黙祷を捧げた。そしてヨハネ・パウロ二世が1981年の来日時に行ったミサにおいて「平和と自然は、人間が人間らしく生きるために不可欠な社会共通財産である」と説教をしたことを紹介し、「今振り返ると、社会的共通資本の研究とは、ローマ法王のお言葉を経済学の枠組みの中でどう現実のものにするかを考えることだった」と述べた。

続いて、社会的共通資本の考え方が経済学史の中でどのような位置づけにあるかを詳細に解説し、「社会的共通資本の出発点は古典派経済学の始祖アダム・スミスにある」と説明。「人間が人間らしく生きるためには、ある程度、経済的、物質的に豊かでないといけない」と考えたアダム・スミスは著書『国富論』で、国土とそこに住む人々が豊かになる方法を考察した。後にJ.S. ミルが著書『経済学原理』で「定常状態(国民所得や消費、投資などマクロ経済的な変数は一定だが、その中の人々は活気に満ちた営みを行っている)」という言葉を用いてアダム・スミスに始まる古典派経済学の理想像

社会的共通資本とは、効率主義優先の経済運営、教育や医療の荒廃、地球環境の悪化などに直面する現代社会において、人間の心を大切にして、より人間らしく生きられる社会の仕組みを意味し、具体的には環境・水利・土壌などの自然資本、医療・教育・金融などの制度資本、上下水道・公共交通などの社会的インフラストラクチャーなどで構成される。

宇沢専任フェローはまず講演に先立ち、



を明らかにした。しかし、J.S. ミルの考え方に対しては、現実社会との乖離が疑問視されるようになる。この疑問にウィリアム・ヴェブレンが1つの解答を与えた。経済学者の仕事は、人間的な尊厳が保たれ、魂の自立が図られ、市民の権利が最大限享受できるような世界を求めて研究するべきである。それはアダム・スミスやJ.S. ミルが理想としていた定常状態を実現するために、どのような経済的制度を作ればよいかを考えるべきだとの主張だったが、やがてこの制度主義は影響力を失っていくが、宇沢専任フェローは、ヴェブレンの考え方を社会的共通資本の問題として捉え、どのような社会的共通資本を作り、どのように維持管理すれば定常状態が実現できるかを考えるに至った。これまでの研究の経緯を語った。

加えて、「こうした社会的共通資本の必要性について説明すると、官僚は自分たちのやっていることを社会的共通資本だと思いたい。違いをする。パウル崩壊後の壊滅的な経済状況は、金融・土地行政が官僚的な判断基準によって行われたためだと批判した。シカゴ大学教授時代にシカゴ学派の代表的経済学者フランク・H. ナイトのリベラルな指導を受けた経験を受けて、「金融制度も土地制度も、大事な社会的共通資本。それぞれの分野の職業的な専門家が、職業的な知見をフルに活用して管理して初めて社会的共通資本は生きるものだ」とした。

1990年、宇沢専任フェローは社会的共通資本の考え方に共鳴していたヨハネ・パウロ二世から、ローマ教会の公的見解を全世界

に発表する文書「回勅」の編纂協力を依頼された。回勅は歴代のローマ法王によって作成されているが、1891年には時の法王レオ十三世によって「レールム・ノヴァルム」というタイトルの回勅が出されている。「資本主義の弊害と社会主義の幻想」という衝撃的な副題が付いたこの回勅では、資本家に搾取される労働者階級の悲惨さと、人間性の破壊すら予感させる社会主義体制の危険性が指摘されていた。それから約100年後、ヨハネ・パウロ二世は、祖国ポーランドが1989年以来社会主義から体制を転換し、アメリカ主導の資本主義への道を急速に歩み出した姿を見て、第2の「レールム・ノヴァルム」を出すことを決めた。この時、宇沢専任フェローは、副題を「社会主義の弊害と資本主義の幻想」とすることを提案。「この回勅は1991年5月15日に全世界に発表された。その年8月、ソ連共産党が壊滅する8月革命が起こり、やがてソ連帝国という国家自体が解体されるという世界的な事件に発展した。この回勅が一定の役割を果たしたに違いない」と述べた。

最後に宇沢専任フェローは、「ヨハネ・パウロ二世は、過去にローマ教会が犯した歴史的な過ちを調べて、謝罪を行った。また、世界中の宗教指導者と会い、和解を図った。多様な宗教のすべては人類の平和と共存を目的としているというメッセージだったと思う。社会的共通資本を研究する者の役割は、ヨハネ・パウロ二世のように、人間の心が豊かになるよう、安定した平和が維持されるよう努力することだと講演を締めくくった。

※『レールム・ノヴァルム』

ローマ法王が在位中に出す回勅。その時々世界が直面している重要な問題を捉え、詳しく分析し、全世界の司教に同時に配られる。ラテン語で「新しいこと」を意味する。カトリックでは「革命」と訳されている。

CAMPUS NEWS

キャンパスニュース

第3回情報科学技術フォーラムで FITヤングリサーチャー賞を受賞



笹田 慶二郎さん

【大学院工学研究科知識工学専攻博士課程(前期課程)2年次生】

ふさわしく、企業や大学の研究者による講演数は約900。その中で、笹田さんの講演内容が評価され、新進の科学者・技術者に贈られる今回の受賞につながった。

「この発表は、情報システム学研究室の金田重郎教授に初めて勧められた印象深いものであり、喜びもひとしおです」と笹田さんは話す。

笹田さんの研究テーマは、「子育て支援を目指した『e子育てNETシステム』の提案」。保育所や幼稚園に通う子どもの発達・活動記録情報をネットワーク上で共有し、保護者はもちろん、医師やカウンセラー、児童相談所、行政など、地域全体で子育てを支援できるのが大きな特徴。

「情報システムを幼児教育に応用しよう」と研究をスタートしましたが、何もかもが手探り状態。研究として成り立つのかという不安もありました。しかし、金田教授や常磐台短期大学の新高公朗先生の協力、保育所や幼稚園でのヒアリングや保育業務を観察するなかで、保育者が日々記録している子どもの発達・活動記録データが生成されていないことに気づき、今回のシステムの開発・構築へと結びつきました。

同システムは、試行的に現場で用いられ、保育者から「保育を見直すきっかけになる」と好評を得るなど、いくつかの保育所への導入も検討されている。

総合電機メーカーへの就職が内定している笹田さんは、「企業の中に身を置いてもチャレンジ精神は忘れず、スキルアップを図りたい。そして、修了までにe子育てNETシ

ステムをさらに発展させ、より多くの人の役に立つようにしたいですね」と結んだ。

「フェアトレードって何？」 FMラジオで情報発信

フェアトレードを通して社会のあり方を考える学生団体「ARCH」が、コミュニティFM・京都三条ラジオカフェ(79.7MHz)で「学生フェアトレードステーション」を制作、放送している。ARCHは、同志社大学をはじめ京都や滋賀の学生16人で結成。代表を務める山田裕一朗さん(経済学部経済学科3年次生)らがパーソナリティーとなって、フェアトレードに関する情報を発信する。

「私たちが普段買っているモノの背景には、発展途上国の貧困問題、労働問題、環境問題などが隠れています。そうした問題を解決するために、生産者と顔の見える関係を築き、公正な価格で継続的な取引を行うことで経済的・社会的発展を促し、持続可能で豊かな社会の維持をめざそうと始まったのがフェアトレードです」と山田さんは語る。



山田 裕一朗さん
【経済学部経済学科3年次生】

1960年代にヨーロッパで生まれたフェアトレード運動は近年になり日本でも知られるようになってきた。「まずはフェアトレードに興味を持ってもらいたい。次にフェアトレードとは何かを知ってもらい、貧困国、途上国と生産国の問題を意識してほしい。最終的には、フェアトレードを通して消費国あるいは日本人としてできることは何かを考えていきたい。『フェアトレードを知ること、それは私たちの未来を考える始まり』というARCHのコンセプトにはそんな意味が込められています」。

世界で取引されているフェアトレード商品はコーヒー、紅茶、砂糖、チョコレート、蜂蜜、果物の食品のほか服飾品など。大手スーパーがフェアトレード商品を扱うようになり、同志社大学生協でもフェアトレードコーヒーが販売されている。



「今ブームになりつつあるフェアトレードについてしっかりと理解するために、番組では批判的な意見も紹介したいと考えています。というのも、フェアトレードにも問題があるからです。何らかの生産手段を持つ層だけにフェアトレードの恩恵が及ぶと、生産手段を一切持たない更なる貧困層との格差を拡大してしまうというのだ。

「例えばカンボジアのように、フェアトレードに関わることでできないほど極度の貧困国もあります。ただ、こうした問題を解決するための1つのきっかけになることには変わりありません」。

初回の放送でディレクターを務めた金澤哲さん(経済学部経済学科3年次生)は「海



金澤 哲さん
【経済学部経済学科3年次生】

6月18・19日に臨済宗建仁寺西来院で同志社大学書道部主催の「第一回青嵐展」が開催された。今年で創部70周年を迎える書道部は、昨年、第40回を数えた河原町書作展から新たな表現の場を求めて、この青嵐展を企画するに至った。

「第一回青嵐展」開催

放送は第1、第3日曜日18時から。12月末まで全12回の放送を予定。番組はインターネットでも配信している。
<http://members2.tsukaeru.net/arch/>



柴田 裕里さん
【経済学部経済学科3年次生】

外には社内用のコーヒーをすべてフェアトレード製品に変えた企業もあると聞きます。そこでCSR(企業の社会的責任)の観点からフェアトレードを考えてみたい、パーソナリティーを務めた柴田裕里さん(経済学部経済学科3年次生)は「従来の貿易とフェアトレードが両立する可能性について研究しようと思います」と、今後の番組制作には各メンバー独自のテーマも盛り込んでいくという。

今回の書作展は、創作を中心としている。日頃の練習の成果を、自分たちが親しんでいる歌の歌詞や好きな言葉、文字、漢詩などで表現し、一つとして同じものはない個性を一人ひとり自分の作品にぶつけた。また、Tシャツに筆で字を書き、書の表現の可能性を探るなどの新たな趣向を凝らし、書道に興味のある人にも、そうでない人にも親しんでもらえる展覧会をと、企画の段階からアイデアを絞った。

書道部には、大学生から書道を始めた者も多く、この展覧会のために日々練習を重ね、その成果を集結。まさに「青嵐」の名前どおりの展覧会であったといえる。会場の建仁寺は、京都の人気の観光スポットということもあり、一般の来場者も



「青嵐展」の青嵐とは、季語で、初夏に吹き渡るさわやかな風のことであり、学生らしい瑞々しい感性を書に表そうと名づけた。まず、西来院の門をくぐると、縦2m×横6mの「開」という巨大な書が来場者の度肝を抜く。会場内には、入口の作品に勝るとも劣らない50点にのぼる力作が来場者の目を楽しませた。

多く訪れ、熱心に作品に魅入ったり、部員と書についての話に花が咲いたりする場面も見られた。2日間の開催で来場者は200人を超えた。



最後に、「第一回青嵐展」を開催するにあたり、ご協力いただいた建仁寺の皆さまをはじめ、お力添えを賜りました関係者の皆さまに心からお礼申しあげます。

(文学部英文学科3年次生 藤澤篤志)

不耕起で甦れ！生駒の里山 実践を通して エコロジー経済学を考える

経済学部岸ゼミでは、関西文化学術研究都市の生駒市高山地区で、里山の再生・保全活動の一環として休耕田となった棚田(12・8㍔)を借り受け、昨年11月から不耕起稲作を始めました。この地区は都

市開発が凍結されたまま、耕作放棄田や竹林が拡大しており、オオタカを始め多くの絶滅危惧種の保護が急務とされています。

私たちが試みている不耕起稲作は、田を耕さずに稲を野生化させ、冷害や病害虫に強い稲を育てる農法です。できる限り労力を使わずに、豊かな生態系を再生させながら、それなりの収穫量を確保したいという観点からこの農法を採り入れました。もちろん化学肥料や農薬を一切使わず、化石燃料もできる限り使わないようにしています。

不耕起とはいえ、5年間放置され荒れ果てた田を元の田に戻すためには備中鉢で何度も田を耕起せねばならず、また水路の補修などもしなければなりません。しかし試行錯誤の結果、6月中旬には田植えを終えることができました。

これまでの作業を通して、田圃が維持管理の必要な生産資本設備であること、また、普段何気なく食べているお米を作るのに、これだけ手間暇がかかることを実感し、農家の方々の苦勞を身をもって知りました。

活動当初は「経済学部なのになぜ農作業をするのか？」と疑問に思うことがあ

りました。しかし、豊かな自然の中で農作業を続ける中で、現代の飽食社会の中で忘れかけていた食物へのありがたさを改めて深く感じ、農業が日本を支えてきた重要な経済活動の一つである事に気づきました。さらに食糧安全保障の問題や生物多様性の損失などの環境問題を身をもって捉えることができるようになりました。エコロジー経済学を学ぶ私たち岸ゼミ生は、このような実践活動を通してながら、持続可能な社会のあり方についての研究を進めています。



また我われのこの活動を農村環境整備センター主催の第7回「田んぼの学校」企画コンテストに「生駒の自然を愛する会」と共同で応募し、入賞しました。

私たちの活動に少しでも関心を持たれた方は、岸ゼミまで是非ご連絡ください。

連絡先: <http://kzemi.hp.infoseek.co.jp/>
E-mail: bed034q@mail3.doshisha.ac.jp
(経済学部経済学科3年次生 木下将之)

2005年度文部科学省現代的 教育ニーズ取組支援プログラム (現代GP)に2件採択

文部科学省の平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に同志社大学の2つのプログラムが、特に優れた教育プロジェクトとして採択されました。

■企業法務プロフェッショナル育成 —プログラムの開発・実践—

法学部が行うこの新たな取り組みは、企業法務のプロフェッショナルを育成するために、企業と共同で行う法学教育(産学共同教育)である。1～4年次まで学習段階に応じて、実践的な講義科目と新たなインターシップによって、企業の法務部門で即戦力となる人材を毎年50～100人程度輩出しようとするもの。最大の特徴は、企業法務に関する課題を設定した上で企業人と教員の個別指導の下、企業法務関連部門で研修・実習を行う「リーガル・フィールドワーク」である。

これまで多数の法曹を輩出してきた実績に加え、新たな産学共同の教育に取り組むことで企業法務の専門家庭教育にも注力する。

■けいはんな知的特区活性化デザインの提案―環境・都市再生の教育プログラムによる学生参加の街づくり―

京田辺校地が位置する「けいはんな地域は、京都・大阪・奈良を核として、民間主導の街づくりをめざす」「国際研究開発機構」として「けいはんな知的特区」に認定されている。本教育プログラムは、これに対して、学生参加による知的特区活性化へのデザイン提案を行おうというものである。そのために、本学の豊富な教育・研究の人的ネットワークを活用した学生参加型プロジェクト実践教育を展開。地域が求める国際交流・環境共生・多世代交流等の課題を解決できる創造力・プロデュース力・コンセプトデザイン力等を身につける中で、地域マネジメント能力を有する人材を育成する。その成果として、学生が作成したコンセプトデザインについて、地域・商業・環境貢献を軸に地域住民とともに評価するコンテスト等も企画されている。これらの評価結果を積み重ねてさらに「プロジェクト科目」の授業内容に反映、充実させていく予定である。

新修彦根市史 第9巻

高久嶺之介 他 執筆
彦根市史編集委員会 5000円

専門職の転職構造

藤本昌代 著 文眞堂 3000円

クラシック音楽の政治学

清水穰 他 著
青弓社 3000円

法と心理学のフロンティア 巻理論・制度編

木下麻奈子 他 執筆
北大路書房 3500円

叢書・へ知への森5 源氏文化の時空

植木朝子 他 執筆
森話社 2400円

卒業生の新刊図書

『営業マネージャーのためのプロセスマネジメントの考え方・進め方』

内藤 和美さん 著 1958年文学部卒業

インデックス・コミュニケーションズ
1800円（税別）

『夢があるからがんばれる―無名の「よき市民」たちの生きざま』

福本 武久さん 著 1965年法学部卒業

PHP研究所 1500円（税別）

『トンネルトンネル』

第4回碧天社文芸大賞出版奨励作

ps・ナオキ（小松 直樹さん） 著
（1983年工学部卒業）

碧天社 1000円（税別）

本学教員執筆図書の紹介（総合情報センター調べ）

私たちの社会福祉法 第2版

奥村正雄 他 執筆
法律文化社 2900円

結社の世界史5 クラブが創った国アメリカ

山田史郎 他 執筆
山川出版社 3200円

ロースクール国際私法・国際民事手続法

高杉直 他 執筆
有斐閣 4800円

華人社会がわかる本

森川眞規雄 他 執筆
明石書店 2000円

民事手続法 第2版

佐藤鉄男 他 執筆
有斐閣 1900円

都市同郷団体の研究

鯉坂学 著
法律文化社 4700円

アメリカ外交

村田晃嗣 著 講談社 740円

エッセンシャル法学

大谷實 編著、瀬川晃、
奥村正雄、十河太朗、
川崎友巳 他 執筆 成文堂 2900円

ケミカル・メタモルフォーシス

遠藤徹 著
河出書房新社 1600円

ホワイトカラーの仕事と成果

石田光男 他 編著
東洋経済新報社 2600円

広げる知の世界

北尾謙治、西納春雄 他 著
ひつじ書房 1600円

『ドン・キホーテ』を読む

稲本健一 他 執筆
行路社 2200円

日韓対照言語学入門

油谷幸利 著
白帝社 1800円

現代会計の認識拡大

加藤盛弘 著
森山書店 3200円

知識ネットワークキング

太田進一 監訳 他 翻訳
晃洋書房 2900円

グローバル化の倫理学

戒能通弘 他 翻訳
昭和堂 2300円

敏満寺遺跡 石仏谷墓跡

鋤柄俊夫 他 執筆
多賀町教育委員会 4200円

ウォッチング労働法

土田道夫 他 著 有斐閣 2900円

マンガ表現学入門

竹内オサム 著
筑摩書房 1900円

認められたい！

太田肇 著
日本経済新聞社 1400円

千里の志 新島襄を語る(二)

本井康博 著 思文閣出版 1900円

言語の事典

松本啓子 他 執筆
朝倉書店 29400円

日本海域歴史大系 第三巻 中世篇

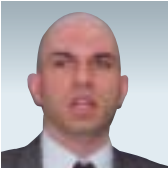
鋤柄俊夫 他 執筆
清文堂出版 38000円

金融用語辞典

鹿野嘉昭 他 著
東洋経済新報社 2200円

■ 新任教員紹介

このたび新たに6人の先生方をお迎えします。① 所属(学科) ② 職名 ③ 主な担当科目



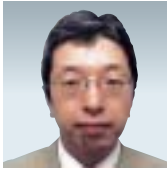
Christian COLLET
(クリスチャン コレット)
① アメリカ研究科(アメリカ)
② 助教授
③ アメリカの政治と社会



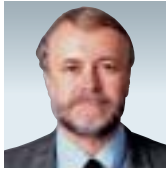
カ久 昌幸
(かき ひでまさゆき)
① 法(政治)
② 教授
③ 比較政治



上野谷 加代子
(うえのや かよこ)
① 社会(社会福祉)
② 教授
③ コミュニティ・ワーク



中川 明子
(なかがわ あきこ)
① 文(哲)
② 講師
③ 倫理学



Daniel L. BRATTON
(だにえる エル・ブラットン)
① 文(英文)
② 教授
③ Communicative English Skills



Samir Abdel Hamid L. NOUH
(サミール アブデル ハミド・ルーヌーイ)
① 神(神)
② 教授
③ イスラーム文化・演習Ⅷ、Ⅹ

2005年度 卒業式・学位授与式 2006年度 入学式について

入 学 式 (留学生別科)		入 学 式 (大 学 院)		入 学 式		修 了 式 (留学生別科)		卒業式 学位授与式(学部)(大学院)	
神学館礼拝堂	栄 光 館	京田辺校地 デイヴィス記念館	場 所	4月3日(月) 16時30分	4月3日(月) 10時	4月1日(土) 14時 12時 10時	日 時	京田辺校地 デイヴィス記念館	栄 光 館
4月3日(月) 16時30分	4月3日(月) 10時	4月1日(土) 14時 12時 10時	日 時	3月22日(水) 13時	3月21日(火・祝) 13時 10時	3月20日(月) 15時 12時30分 10時	日 時	工学部 工学研究科	工学部 工学研究科
留学生別科	全研究科	神学部 法学部 経済学部 商学部 文学部 社会学部 政策学部 文化情報学部	学部・研究科	工学部 工学研究科	経済学部 経済学研究科 総合政策科学研究科 ビジネス研究科 商学部 商学研究科 アメリカ研究科	法学部 法学研究科 文学部(英文学科・社会学科) 文学研究科 文学部(文化学科) 文学研究科 省・文化史・心理・国文・美芸・教育学専攻 司法研究科	学部・研究科	工学部 工学研究科	法学部 法学研究科 文学部(英文学科・社会学科) 文学研究科 文学部(文化学科) 文学研究科 省・文化史・心理・国文・美芸・教育学専攻 司法研究科



Present
For You

清水圭さんの
サイン色紙をさしあげます。

テレビ等で活躍のタレント清水圭(本名:清水圭太)さんは、1985年に商学部を卒業されています。7月にテレビ番組のロケが本学で行われた際にサインをいただきました。ご希望の方は、ハガキかE-mailで住所、氏名、学部(卒業生の方は出身学部と卒業年)、「One Purposeの感想」をご記入のうえ、2005年11月30日(消印有効)までに広報課にご応募ください。抽選のうえ、3人の方にプレゼントします。当選の発表は発送をもってかえさせていただきます。
※広報課の連絡先は裏表紙に記載
※収集した個人情報は、色紙送付ならびにアンケート内容の分析のみに使用します。

143号のお詫びと訂正
ワンパーパス143号の記事に誤りがありました。P16<Present For You>大八木淳史さんの名前【誤】大八木 敦史さんのサイン色紙をさしあげます。【正】大八木 淳史さんのサイン色紙をさしあげます。以上、お詫びして訂正いたします。

日本コカ・コーラ株式会社代表取締役社長

魚谷雅彦さんに聞く



岩見●魚谷さんは学生時代、何に興味をお持ちでしたか。

魚谷●英語ですね。私は英語を学ぶため、文学部英文学科に入学しました。目標は、英語検定1級を取得すること、アメリカに留学すること。この目標を持ったのは、もともとあった興味に加えて、アメリカ研究の第一人者である明石紀雄先生の影響が大きいのと思います。最初の講義で教室に入ってきた先生は、長髪にベルボトムといういでたち。これには驚きました。先生は、アメリカでの研究生活から帰国されたばかりだったのです。そんな先生の「生きたアメリカンカルチャーを勉強してもらいたい」との言葉に感激した私は、アメリカをもっと知りたい、英語を話したい、アメリカ人の友達を作りたいという思いを、いつそう強くしました。英会話学校にも通いながらの猛勉強の結果、4年次で英語検定1級に合格することができました。

岩見●英語一色の学生生活だったのですか。

魚谷●サークル活動も積極的にやっていました。ある時、友人にたまたま誘われて観た歌舞伎の面白さに取りつかれ、歌舞

伎研究会に入部しました。最後には幹事まで務めるほど熱中しました。歌舞伎は日本文化を象徴する芸術の一つです。外国人と話をしていると、良く話題に上るので、知っておいて良かったなと思います。並行して、スキーやテニスのサークルにも入っていました。当時の友人とは、30年経った今も付き合いがあります。

岩見●充実した大学生活を過ごされたのですね。

魚谷●ただ、学生時代に叶わなかったアメリカ留学への思いが強かったので、社内留学制度のあるライオン株式会社に入社しました。営業職として勤務しながら留学

魚谷 雅彦さん 【1977年文学部英文学科卒業】

1954年、奈良県生まれ。ライオン株式会社に在籍中の1983年、コロンビア大学でMBAを取得。1991年、株式会社クラフト・ジャパンに入社し、代表取締役副社長に就任。1994年、日本コカ・コーラ株式会社に入社、取締役副社長、取締役筆頭副社長を経て、2001年、日本コカ・コーラでは26年ぶりの日本人社長に就任した。趣味はゴルフ。



資格試験のための勉強を続け、入社5年目の1981年から2年間、コロンビア大学ビジネススクールに留学し、MBAを取得しました。帰国後は再び営業職を経て企画部門に移り、プロのマーケターとしての仕事が始まりました。その後、ライオンからクラフト・ジャパン株式会社に移り、そして1994年にコカ・コーラに入社しました。

岩見●私はマーケティングに興味があり、現在、ゼミやサークルで学んでいます。

魚谷●そうですか。私はまったくマーケティングの知識を持たずにライオンに入社したので、新人社員研修の席で「マーケティングとは何か」と質問され、「市場調査ですか?」と答えるのが精一杯でしたよ。それ以降

は、キャリアの中で学んでいた部分が大きいです。消費者の価値観や行動を分析して、どのような製品を送り出せば良いか。どのような広告を展開すれば良いか。通勤電車でも、街を歩いていると、つねに

人を観察し、アイデアを練っていました。日本コカ・コーラに入社して最初に指揮したプロジェクトが、缶コード「ジョージア」のキャンペーンだったのですが、企画から実施までたった3カ月というハードスケジュールのなか、連日深夜までミーティング



をこなしました。みんなと協力して取り組めた結果、各方面からの反響も大きく、良い結果が生まれたと思います。岩見●社長になられた現在も、そのようなペースでお仕事をされているのですか。

魚谷●いえ、そこまでハードな仕事の進め方は、今はさすがに難しい笑。やはり仕事の内容が変わってきています。たしかにマーケティングは経営の柱ですが、今の私は、人と組織について考えることを優先しています。消費者の行動を把握し、革新的な新製品や広告展開のアイデアを持つ人材をどう育てるか。会社の長期ビジョンにふさわしい組織を作り、最大のアウトプットを生むにはどうすれば良いか。社長に就任してからは、この点に腐心しています。ただ、人材育成には時間がかかります。だからといって、何でも自分で引き受けてしまわないように気を付けてながら、社員から自発的なアイデアが生まれる土壌を作るように心がけています。

岩見●ビジネスで大事にしておられることは何ですか。

魚谷●それは「志」です。社会人になったばかりの頃、本当に留学させてもらえるのだろうかという不安がよぎり、この会社を選んだ自分の選択は正しかったのかと疑問に思った時期がありました。多くの人から話を聞いたり、いろんな本を読んだりして気持ちを整理しようとしていましたが、ある時、阪急グループを創業した小林一三さんの著書の中に、「志は高く持ちなさい」とあるのを見つけました。夢や理想を持ちつつ、自分の足下をしつかりと固めなければ、志に近づくことはできないんだ、と。ふっと気持ちが楽になりました。それ以来、「志」という言葉は私の心の

拠り所となりました。そこで当社でも社員の行動指針を記した「こころざし読本」という冊子を作成し、一人ひとりに名前を刻印して配っています。「胸躍る楽しさを共有する」「革新的に発想する」「誠実に対応する」「信用される集団になる」「信頼関係を築く」「企業責任を遂行する」という6つの志を、日本語と英語で説いています。外国人社員には「サムライの言葉だよ」と説明すると、分かってもらいやすいようです。同志社大学も、新島襄の志に感銘を受けた人々によって大きくなっていったわけですよ。

岩見●新島襄から受けた影響は大きいのですか。

魚谷●とても大きいと思います。実は、入学まではほとんど知らなかったのですが、入学後、同志社高等学校出身の友人から話を聞き、次第に新島先生の生き方に共感するようになりました。鎖国をしていた時代に、身の危険を省みず、海外の学問や文化を吸収したいという志を胸にアメリカに渡ったのですから。留学中の1981年、私はボストンからレンタカーを走らせて、アーモスト大学を訪れました。キャンパスの燃えるような紅葉が今も目に焼き付いています。大学には新島先生の遺品が展示されているのですが、かじかむ手で必死に綴ったノートの文字などは、涙無くしては見る事ができませんでした。未知の世界へ高い志を持ってチャレンジし、しかもその思いを完遂させた彼の人

INTERVIEW

日本コカ・コーラ株式会社
代表取締役社長 魚谷雅彦さんに聞く

生を思うと、私もそうありたいと感じます。

岩見●魚谷さんからご覧になって、アメリカはどのような国だったのですか。

魚谷●他人に対して自分に何ができるかを考え、困っている人に手をさしのべる、そんな良心を持った人が多い国だと思います。ビジネススクールで親しくなった友人が、なかなか日本に帰れない私をかわいそうに思い、クリスマスの時期、わざわざ実家へ招いてくれたことがありました。人種や言葉の壁を越え、良好な関係を築こうとする社会、懐の深い社会ですね。ワイルド・ローヴァー号の船主、ハーディー夫妻が新島先生を養子に迎えたというエピソードにも、そのことが良く表れていると思います。

仕事をしていると、「人ってすごく大事なだ」と感じます。同じプロジェクトチームのメンバー、すべての社員、あるいはアメリカのザコカ・コーラカンパニーの社員もそうですが、人間同士は必ず分かちあえると思っているのは、こうしたアメリカでの体験がベースにあるからなのでしょう。

岩見●今、魚谷さんが持つておられる志とは、どのようなものですか。

魚谷●社員各自のキャリアアップと会社の発展とが一致して、みんながハッピーになること。そして日本から世界へ、どんな新製品を発信すること。この二つです。新製品開発の分野では、本国アメリカよりも日本の方が進んでいて、世界から注

目されています。私たちの努力の結晶を、世界のマーケットに早く並べたいですね。

岩見●そのような氣力を維持できる理由は、どこにあるとお考えですか。

魚谷●一つは、人が好きだということですね。好きだからこそ、社員みんなと楽しく



仕事ができる。もう一つは、家庭です。私は家庭でも仕事の話をするのですが、妻に意見を聞くこともあります。また、子どもたちからは「コーシヤルが面白い」などと意見をもらうこともあります(笑)。

私はオンとオフの切り替えがどうも苦手なようです。枕元に紙とペンを置いておき、夜中に寝ていても、ふと浮かんだアイデアをメモするようにしています。24時間、仕事のことを考え続けていますね。そして、変化していくことが好きです。「今日まではこうだったから、明日も同じ」というのではなく、日々どう変えていこうかと考えるのが楽しいのです。あとは、コカ・コーラを飲んでリフレッシュすることですね(笑)。

岩見●最後に、学生へのメッセージをお願いします。

魚谷●日本では、与えられたある課題に対して正解を書く、という教育を施されることが多いようです。しかしアメリカでは、「自分自身がどう思うのか」が重視されます。人と違う意見でも、そこに至る理由付けがしっかりしていれば構わないわけです。この差は大きいのです。企業で働くようになって、自分はどう思うのか、しっかりと考えるようにして欲しいと思います。

そして新島先生のように、大きな志を持って、チャレンジすることを忘れないでください。自分の周りの世界だけでなく、一歩外に飛び出せば新しい出会いが待っているはずですよ。

岩見●本日はお忙しいなか、ありがとうございました。

志を持ち、夢を実現することの大切さを教えていただきました。

とても柔らかな口調で、分かり易く質問に答えていただきました。聞けば、高校時代に落語研究会に所属されていたそうです。魅力ある話に、ぐいぐい引き込まれていました。魚谷さんは、ご自分で設定された高い目標、つまり「志」を持ち、夢に向かって突き進んでこられました。新島裏に大きな影響を受けたと語っておられましたが、新島の人生と魚谷さんの半生とは通じるものがあるような気がしました。私はマーケティングや商品開発を学んでいますが、コカ・コーラ社の製品について、一度議論してみたいなりました。最後に魚谷さんは「若い人のためになるなら、同志社でいつでも話をしますよ」とうれいこともおっしゃっていただきました。研究を深めるために、ぜひもう一度、お話を伺ってみたいと思っています。

INTERVIEWER



岩見 知代さん

【商学部商学科3年次生】

ゼミで製品開発やマーケティングについて学ぶ傍ら、広告研究会に所属し、学生団体の広報戦略や同志社大学生協のグッズ開発などに携わる。将来は、企業の広報業務を志望している。

私は、弁護士に憧れて法学部法律学科に入学しました。しかし、入学してみると、受験時代の緊張の糸が切れ、授業にもあまり出席せず、サークル活動とアルバイトに明け暮れ、結局、3年次生まで勉強らしい勉強は全くせず、就職活動の時期を向かえてしまいました。法律専門家としての仕事が出来ないという思いは持ち続けていたものの、人命を救う医療の仕事にも興味があったことから、就職活動は医薬品メーカーに的を絞って行いました。面接の席ではどの会社でも私は



必ずある希望を伝えました。それは、まずは営業職として現場の経験を積みたい。ただ法律に関わる仕事が出来ないという夢があるので、その後は法律関係の部署に配属してほしいというものでした。この気持ちを理解してくれたのが千代田でした。

入社後は希望通り営業職に就くことができ、医療現場における課題を目的に当たりにすることができました。4年目に異動を告げられ、念願の法務部へ。しかし、自分には法学部卒業とはいえないほどまったく法律の知識がありません。入社前、確かに夢は語りましたが、日々の仕事に流されて何の準備もしていなかったのです。異動してからの1、2カ月、私は寝る間を惜しんで勉強に没頭しました。まずは仕事での使用頻

度が高い民法や商法を中心に基本書を読み込み、なんとか恥ずかしくない程度の知識を身につけました。また、会社の実務や顧問弁護士との法律事務所での研修を通して、法律知識を実用レベルで使用することを学びました。このような中、次第に昔見ていた弁護士への夢に再び火がつき、一念発起、司法試験に向け勉強を開始しました。仕事に手を抜くことなく、平日は帰宅時から深夜まで、休日は一日中机に向かうという生活を4年間、3度受験して合格には至りませんでした。その間、法律の知識に加えて法務のスキルは確実に上がっていました。そんな中、あることに気づきました。資格にこだわらなくても、法律を使って会社の役に立つことができる今の仕事は、十分に「法律の仕事」と言えるのではないだろうか、と3回勝負と決めていたこともあり、結局法曹への道は断念しましたが、司法試験に挑戦することで得た知識や経験は自分の宝であり、以後も思いを新たに仕事に取り組むことができました。

法務部の主な業務は、他の会社、大学、医療機関、研究機関との契約書の作成・チェックや、研究開発、製造、販売の各段階においてコンプライアンス違反が発生しないよう社内各組織からの相談に法的支援を行うこと、また社内プロジェクトへの参加。ほかにも、社内外で発生したトラブルへの対応などがあります。巨大企業では法務部の中も細分化され、それぞれの内容に応じたスペシャリストが置かれているものと思います。が、私たちの部署は現在10人。全員がゼネ

ラリストであることが求められます。私たちの仕事は、会社を守る最後の砦。ミスは許されません。その中でも、私はつねに「お互いが幸せになる」解決方法を模索します。片方だけが有利になるのではなく、イーブンに、そして合理的に問題解決に導いたとき、この仕事にやりがいを感じます。

就職後に仕事にやりがいを感じて頑張れるかどうかは、その仕事の本当に好きになれるかどうかにかかっています。ネームバリューだけを頼りに会社を選択するのは危険です。自己適性についての分析を徹底して行ううえで、企業理念に共感でき、また自分の実力が十分に発揮できそうな規模、企業風土の会社を探してみてください。私はそうやってこの会社を選び、今、とても満足しています。

P R O F I L E



辻内 孝之さん

【1993年法学部法律学科卒業】

エーザイ株式会社
法務部 勤務

スキーとアウトドア、2つのサークルを掛け持ちし、「大学生活で最もウエイトを置いていたのは、友人と楽しく過ごす時間。どれだけ場を盛り上げられるか、そればかり考えていましたね」と振り返る辻内さん。法務部内の人望も厚い。次の目標は、グローバル案件にも柔軟に対応できるよう、海外のロースクールに留学することだそう。

シリーズ

MY JOB,

第27回

私と

学生時代、とても無口だったあの人が、
学生時代、英語の苦手だったあの人が、
このシリーズは、毎号それぞれの分野で活躍する
何を考えてきたかを取材しています。
学生諸君には将来のキャリア・プランと学生

MY JOB
MY LIFE

ゼミでの学びを糧に、
国内外の環境インフラを
整備する。

私は、現在、三菱商事の機械グループに属し
主に水道事業や上下水処理設備の建設整備
地球温暖化防止のための様々なビジネスに携わ
っています。

これまで日本の水道事業は各地方自治体の
水道局が運営してきましたが、地方自治体の財
政悪化が深刻化するなかで、民間企業に事業
をもっと開放し、適正な管理のもと効率的な水
道事業を展開しようとする取り組みが各地で
始まっています。三菱商事もいち早くこの事業
に取り組んでおり、私の所属する部ではジャパ
ンウォーターという事業会社を設立し、国内で
の水道運営管理事業に挑戦しています。一方



私の主担当地域は海外水道で、特にイリビ
ンなどの首都圏東地域の数百万人の住民に水道
サービスを提供するミラウォーター社への事業
参画を担当しています。一人ひとりに安全な水
を毎日届け続けるという社会インフラ整備を
担う責任は重く、事業マネジメントのみならず、
現場重視、地元密着型の地道なサービスが事業
成功の鍵となるやりがいのある仕事です。

他には、最近日本でもようやく取り組みが
始まった地球温暖化ガスを削減する様々な新
規事業や、再生エネルギーの開発、省エネ事業
にも取り組んでいます。大学時代に研究した京
都議定書が発効し、排出権事業に自らが携わ
る事になるとは、当時、夢にも思っていませんで
した。環境技術は既存商売の枠組みで考える
と利益を生み出す生産プラントではないため、
事業化はハードルが高く、困難も多いですが将

来の地球環境を維持・保全するためには不可
欠であり、興味は失せることがありません

自分のライフワークとしてこのような仕事に
興味をもったのは、やはり環境経済学をテーマ
とする郡馬ゼミで学んだことがきっかけです。
「環境活動は企業の社会的責任の一つである
が、企業にとっても地域社会にとっても持続可
能な形で展開されていかなければならない」と
学び、社会環境インフラ整備の事業を、企業の
立場で取り組んでみたいと考ええるようになり
ました。私の仕事の大半は、いわゆるライフライ
ンの建設や運営であり、何十人、何百人という
人々と共に何年もかけて広大な土地に巨大な
プラントを建設し管理するという気の遠くな
る様な仕事です。今日明日に結果や成果が出
るものではなく、多くの問題が同時に発生し、
徹夜で対応しても仕事をこなさねば、自分
の力があまりにも小さく無力であると感じる
事もあります。そんな時いつも、とにかく現場
を歩き、自分の目で見て、何をすべきか策を考
えよ。他人の意見や資料を鵜呑みにしては、何
も発展的なとは生まれまいという郡馬先生の
教えが思い出されます。その言葉をかみしめ、
自分が何をすべきかを自問しながら、一歩ず
つ前に進んで行こうと現場に戻ります。

私は、3年次の秋からチュービンゲン大学に
留学し、語学やアジア経済学を学び、帰国後
は春学期末に卒業しました。三菱商事へは帰国
後すぐに内定を受けていましたが、入社までの
半年間に企業活動を体験できないかと考え、
デュセルドルフのドイツ三菱商事にインターン
の申し入れをしました。内定者にインターンの
機会が提供されることは例外的ではありません

P R O F I L E

海野 優子さん(旧姓 渡邊)

【2000年経済学部卒業】
三菱商事株式会社 機械グループ
環境・水事業ユニット勤務



「ちょっと北京に行ってきた」という上
司の指示で、突然の出張を終え戻ってき
たばかりだという海野さん。何時でも対
応できるように、パスポートとお泊りセ
ットは常に会社に置いてあります、と笑う。
現在、三菱商事では、ワン・デー・イン
ターンシップなど学生が入社前(就職活
動時)に三菱商事の業務を疑似体験でき
る様々な機会が提供されており、社会的
にも高い評価を受けている。

たが、認めてもらえたのは、自分のやりたいこと
にブレがなく、筋道立てて説明することができ
たからだと思えます。現地では、EU各国での
廃棄物規制に関する調査に没頭し、今後のE
U内廃棄物処理市場と企業の果たすべき役割
に関するレポートをまとめました。この経験は、
自分の興味ある分野をどうビジネスにつなげ
るのかを考えるうえで、とても貴重な機会であ
ったと思います。

自分が何をすべきかを自らの価値基準で考
え、それを機軸に行動できる人が同志社には
多いと思えます。私のゼミがそうであった様に、
同志社のリベラルアーツの教えとしても、個性を
尊び、他人と同じ基準で競争する事を良しと
しない考えが根付いているからでしょう。これは
社会人になっても私の大きな大切な拠り所と
なっています。

ら せ CEMENT

LIVE & PREVIEW

11月10日(木) 古谷充のオートムジャズナイト

11月24日(木) 新作試写会(タイトル未定)

※いずれも要整理券。配付日時等、詳細は掲示や本学ホームページ等でお知らせします。

クローバーシアター

毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールで映画史に残る名作を上映します。

【日 程】10月4日(火)～12月20日(火)の毎週火曜日

(11月29日は創立記念日のため休映)

【会 場】クローバーホール(今出川校地 寒梅館地下1階)

【料 金】無料

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

ドイツ映画の巨匠たち

■F・W・ムルナウ

10月4日(火) 16:45～「吸血鬼ノスフェラトゥ」(64分)

■フリッツ・ラング

18:30～「最後の人」(74分)

10月11日(火) 16:45～「メトロポリス」(94分)

18:30～「M」(98分)

10月18日(火) 16:45～「暗黒街の弾痕」(86分)

■エルンスト・ルビッチ

18:30～「死刑執行人もまた死す」(135分)

10月25日(火) 16:45～「結婚哲学」(86分)

18:30～「ウィンダムリア夫人の扇」(118分)

11月1日(火) 16:45～「極楽特急」(81分)

■R・W・ファスビンダー

18:30～「生きるべきか死ぬべきか」(99分)

11月8日(火) 16:45～「マリア・ブラウンの結婚」(120分)

19:00～「リリー・マルレーン」(120分)

11月15日(火) 16:45～「ベロニカ・フォスのあこがれ」(105分)

18:40～「スペシャル・シネマトーク(予定)」

ah

アッセンブリーアワー

各界でご活躍の方々をお招きし、幅広い知識と教養を、それも書物やテレビを通してではなく、直接講師の人柄に接することにより得られる機会として、アッセンブリーアワーという時間を設けています。講演会、コンサート、演劇、映画、作品展等、多様な形態で開催しています。

春学期に引き続き、皆さんの意欲と知識によって企画をプロデュースする「アッセンブリーアワー学生企画」を募集します。春学期は、「東京大学名誉教授 奥平康弘氏講演会」「イスラームの女性とファッション ファッションショー」の2件が学生企画として採択、実施されました。

【応募要領】

・対象:本学学生・大学院生

・募集する企画の実施期間:11月～1月

・募集期間:9月30日(金)～10月14日(金)

・学生支援課(両校地)に備え付けの所定の企画書を提出してください。

・実施については学生支援課で選考・決定します。

・実施予算および補助額は、1企画10万円程度とし、最大30万円とします。

・企画終了後、報告書および決算書を提出していただきます。

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

EVE

同志社創立130周年を彩る同志社EVEが、今年も今出川校地を中心に開催されます。日常の学生生活・クラブ活動等で培ってきた技術やコミュニケーション能力をアピールする場として、講演会や演劇、演奏会等例年開催されている行事はもちろん、今年は学生だけでなく教職員や地域をも巻き込んだ新しい企画を実施する予定です。

【日 程】前夜祭 11月25日(金) 出店期間 11月26日(土)～28日(月)

【会 場】今出川校地

【お問い合わせ先】第130回全学EVE実行委員会 TEL:075-251-4452

同志社大学マンドリンクラブ第147回定期演奏会

【日 時】11月27日(日) 17:30開場 18:00開演

【場 所】京都府長岡京記念文化会館

【料 金】500円

【曲 目】交響的序曲 P.ラコンブ／石村隆行

ヴェニスへの謝肉祭 J.ブルグマイン／石村隆行 他

【お問い合わせ先】マネージャー 谷

E-mail:bjd0591@mail2.doshisha.ac.jp

第32回 外国文化週間

言語文化教育研究センターでは、毎年春と秋に「外国文化週間」を開催しています。普段教室で行われている授業とは違った角度から外国語や外国の文化に触れようという試みです。映画上映、講演会、写真展等本学学生をはじめ、地域の方々にも楽しんでいただける文化的空間を提供します。

【日 程】12月1日(木)～15日(木)(予定)

【場 所】京田辺校地・今出川校地

【お問い合わせ先】言語文化教育研究センター TEL:0774-65-7070

※詳細は掲示やホームページ等でお知らせします。

新町カフェテリアOPEN

新町キャンパス臨光館1階西側に、新食堂「新町カフェテリア」がオープンしました。惣菜、サラダ、HOTフードの3種類のセルフバーがあり、食べたいものを好きな分だけ選べるメニューが特徴です。

【営業時間】開講期間 月～金 11:00～21:00

開講期間 土 11:00～18:30

開講期間 日祝 11:00～18:00

休講期間の日祝以外

※学生会館内の新町カフェは、「新町ショップ」に名前を変え、文具や日用品、お弁当などを充実。焼きたてパンも販売しています。

スポーツフェスティバル2005 ～はくむ友情・はける笑顔・つなぐココロの架け橋～

卓球やエコロベース等、新種目も加わりますますパワーアップします。

【日 程】11月5日(土:休講日)・6日(日)

【開催場所】京田辺校地 ※レガッタは11月20日(日)於:琵琶湖漕艇場

【参加受付】10月11日(火)～21日(金)

【受付場所】スポーツ支援課(京田辺)、今出川校地学生支援課

スポーツフェスティバル プレ講演会

【日時】10月21日(金)15:00～16:30(予定)

【場所】京田辺市中央公民館

【交通】京田辺キャンパスから無料シャトルバスが出ます(14:00正門発)

【講師】中西哲生さん(体育会サッカー部OB)

【テーマ】大学とまちをつなぐスポーツの可能性

～Jリーグに学ぶスポーツコミュニティの在り方～

【入場料】無料 ※要整理券

【整理券配付場所】同志社大学今出川校地 今出川校地学生支援課

京田辺校地 スポーツ支援課

京田辺市総務課 TEL:0774-64-1311

【お問い合わせ先】スポーツ支援課

TEL:0774-65-7417 FAX:0774-65-7416



同志社創立130周年記念 「同志社大学ホームカミングデー2005」のご案内

精神に帰る、一日

卒業生、一人ひとりの精神に刻みこまれた『同志社』
それは、130年前の1875(明治8)年11月、
新島襄の熱き祈りのうちに産声をあげた。
爾来、今日まで連綿と
「良心ヲ手腕ニ運用スルノ人物」を培い、育んだ。

今、あなたの同志社大学は、
時空を超え、ダイナミックに躍進を続けます。
秋天の一日、
母校にて新たな出会い、思い出、
そして、新たな思い入れを。

卒業生の皆様を思い出多き 今出川キャンパス にお迎えし、旧師や旧友
との再会、現役学生の活動をとおりて母校との「絆」をより深めていただ
く機会となることを願い、6回目を数える「同志社大学ホームカミングデ
ー2005」を開催いたします。

【日 時】11月6日(日)10:00～16:45
【会 場】今出川キャンパス

主なプログラム

開会式

10:00～ 同志社礼拝堂
礼拝形式により実施(「同志社創立130周年記念リユニオン」と共催)

講演会

講師:大谷 實 同志社総長
演題「同志社の過去・現在・未来」

卒業生交流レセプション(会費制)

卒業生・教職員(含退職者)が一堂に会しての交流・歓談の場

ゼミ・クラス・クラブ等の集会

教室を開放します。事前に校友課へお申し込みください。

お茶席(野点)、学生による模擬店

同志社グッズ、新島関連書籍等の販売コーナー、フリードリンクコーナー
*M地下学生食堂、購買部、寒梅館レストランも営業

アトラクション

在学生・卒業生の音楽団体による競演
人力俤友之会の「人力車」でのキャンパス周辺散策、応援団の演舞、演奏

展 示

「思い出の学生生活・学園風景」
写真展、映画・ビデオ上映、懐かしの同志社グッズなど
「躍進する同志社の今」
学部・学科、大学院、入試関係、リエゾンオフィス、小学校など

施設公開

同志社礼拝堂、寒梅館(大学会館)、クラーク記念館改修工事現場、図書
館、Neesima Room、新島旧邸ほか

キャンパスツアー

今出川、京田辺の両キャンパスで実施

閉会式

16:30～ 明徳館前広場
“Doshisha College Song”を歌って再会を約そう

同日開催

同志社創立130周年記念リユニオン、社会学部 学術イベント、ビジネ
ス研究科(MBAコース)入試説明会、リエゾンオフィス「NPO法人 同
志社大学産官学連携支援ネットワーク」総会、同志社大学政法会 第12
回総会、工学部同窓会リユニオン2005

※ご来場の同志社大学卒業生の方には記念品をご用意しております。
※プログラムの内容、時間等の詳細は決まり次第ホームページ
(<http://www.doshisha.ac.jp/>)、校友メールマガジン(ホームペ
ージから「卒業生の方に」をクリック)でお知らせします。
※都合により、プログラムを変更させていただく場合があります。あら
かじめご了承願います。

【お問い合わせ先】校友課

TEL:075-251-3009 FAX:075-251-3097
E-mail:ji-koyu@mail.doshisha.ac.jp

障がい学生支援スタッフ大募集!

障がい学生の自立支援と学生同士の支え合いをめざし、年間を通じ
てスタッフを募集しています。

～学内・学外を問わず、関心のある方ぜひ登録ください～

《アシスタントスタッフ(有償)》募集

聴覚障がい学生の講義保障…ノートテイク(筆記通訳)、パソコン通訳、
手話通訳、ビデオ字幕付け

授業で話されている内容やその場で起こっている音(チャイムなど)を
手書きやパソコン入力により文字にして、または手話により伝えます。

視覚障がい学生の講義保障…テキストファイル文字校正

《ボランティアスタッフ(無償)》募集

視覚障がい学生への支援…ガイドヘルプ、対面朗読、代筆、代読など
肢体不自由学生への支援…車椅子介助、代筆など

「障がい学生支援」スタッフ勉強会

技術を身につけ磨いていくため、週1回ランチタイムに両校地で勉強会
を開催しています。

(日時、内容は決まり次第掲示します)

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270
京田辺校地学生支援課 TEL:0774-65-7410
E-mail:jt-gakse@mail.doshisha.ac.jp



WOT(ワット)

WOT=What's on Thursdays! …合言葉は「木曜日には何かがあ
る!」開講期間中の毎週木曜日、寒梅館ハーディーホールを利用した映
画上映・コンサート等、様々なプログラムを開催します。

【会 場】ハーディーホール(今出川校地 寒梅館地下1階)

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※いずれも詳細は掲示や本学ホームページ等でお知らせします。

※内容は都合により変更となる場合があります。

Cinema

10月6日(木) 「ミリオンダラー・ベイビー」

10月13日(木) 「コーヒー&シガレッツ」

10月20日(木) 「Shall we Dance?」

10月27日(木) 「コーラス」

【時 間】①15:30～/②18:30～

【料 金】法人内学生・教職員 無料

一般:1,000円 他学生:500円

My PURPOSE

挑戦する人

アメリカでアイスダンスに 挑戦する フィギュアスケートの新たな道へ

政策学部に入學したばかりの今春5月、私は渡米し、高地トレーニングで有名なコロラドスプリングスに入りました。昨年、フィギュアスケートの練習中に痛めた右足のリハビリを兼ねたトレーニングのためです。

私のスケート人生はこれまで順調そのものでした。4歳で兄と一緒にスケートを始めた頃は、兄を追い抜くことが目標でした。小学校1年生になると、才能を見出してくれた京都醍醐クラブの濱田美栄コーチ（1982年商学部卒業）のもとで個人レッスンを受けるようになり、フィギュアスケート選手としての道を歩み始めました。中学・高等学校と進んでからも、勉強や学校行事をみんなと同じように頑張りがら、スケートの練習にも励みま

した。その積み重ねと、



持ち前の本番での強さやコーチの熱心な指導もあって、2002年のジュニアグランプリシリーズのベオグラード大

会、ミラノ大会、ジュニアグランプリファイナル、さらに2003年の世界ジュニア選手権と立て続けに優勝することができました。

シニア1年目の2004年、四大陸選手権でも奇跡的に優勝し、さあこれからというときに右足のケガに襲われたのです。シビックは大きく、一時は引退さえ考えました。でも、これまでスケートに打ち込んだきた生活を振り返ると、このまま終わってしまったのは悔いが残ると思い直しました。「私はスケートが好き」「スケートがない人生なんてつまらない」と。私は、滑っているときの顔に当たるあの風の感触が、大好きなのです。その頃、ちょうど私の中でコーチに頼ってはかりではいけないのではないかと、このままでは周囲が敷いてくれた指導に感謝しつつも、これまでは周囲が敷いてくれたレールの上を走っていただけ。悩んでいた私は「自らの責任において人生を歩みなさい」という祖父の言葉を思い出し、失敗してもいいから自分でやってみよう、と渡米を決意したのでした。

ホストファミリーの温かい思いやりに包まれて、私のコロラドスプリングスでの生活がスタートしました。そのような中で出会ったのがアイスダンスでした。アイスダンスは、氷上の社交ダンスといわれ、ジャンプを主体とするシングルの種目とは違って足への負担が軽くリ

ハビリを兼ねたスケートの基礎練習になるし、自分の持ち味である表現力と柔軟性が十分に活かせる競技なのです。私は、リハビリトレーニングとしてだけでなく、本格的にアイスダンスにも取り組むべく、現地のコーチと相談しながら、練習メニューを初めて自分で組みました。練習方法が正しいのかどうか不安に駆られた時もありましたが、無事に初級試験に合格できたことで、今まで経験したことのない達成感を得ることができました。スケートの新しい道を自らの手で切り開くことができました。充実した2カ月間でした。

次の目標は、再渡米してシングルの練習をしながらアイスダンスの技能進級試験を受けること。あまり先のことは考えていません。今は、目の前にあるハードルを一つずつクリアして、チャンスを逃さず頑張れば新しい道が開けてくるのではないかと思っています。大学生活もまだ始まったばかり。政策学部はさまざまな将来像が描ける学部なので、これからいろいろな経験を積み重ねながら、じっくり自分のやりたいことを見つけていくつもりです。



太田 由希奈さん

【政策学部政策学科1年次生】